

平成29年度少子高齢社会等調査検討事業

「自立支援に関する意識調査」報告書

平成30年3月

みずほ情報総研株式会社

- 目 次 -

第1章 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
第2章 調査結果	5
1. 各類型の出現率	5
2. 公表統計データとの比較	7
3. 回答者の特性	8
4. 地域での支え合いに関する意識	11
5. 就労などに関する意識	22
資料編.....	32

第1章 調査概要

1. 調査の目的

障害や病気などを有する者の自立支援について、今後の課題を整理するため、地域での支え合いや就労についての意識を調査した。

2. 調査の方法

■ 調査対象

本調査では、楽天リサーチ株式会社に登録しているモニターから、20歳以上65歳未満のモニターを対象として、性別・年齢階級別の人口構成比に基づいてサンプル割付を行い、調査を実施した。スクリーニング設問により回答者を以下の3類型に分類し、類型ごとに回答者が1,000人に達した時点で回答を締め切った。

類型1	障害や病気を有する者
類型2	身近に障害や病気を有する者がいる者（類型1の該当者を除く）
類型3	類型1・類型2以外の者（かつて障害や病気を有していた者を含む）

本調査への協力依頼の配信先は登録モニターから無作為抽出している。総配信数は30万人であり、総務省「人口推計（平成29年7月1日現在）」の性別・年齢階級別の人口構成比で配信数を配分している。以下に性別・年齢階級別の配信数を示す。

単位:人

配信数	男性	女性	合計
20～29歳	27,534	26,130	53,664
30～39歳	32,803	31,853	64,656
40～49歳	40,941	40,042	80,983
50～59歳	33,493	33,450	66,943
60～64歳	16,631	17,123	33,754
合計	151,402	148,598	300,000

■ 調査期間

平成30年2月20日（火）～2月21日（水）

■ 回収数

各類型1,000件、合計3,000件

回答数	全体	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳
類型1	1,000	136	155	272	279	158
類型2	1,000	127	194	240	275	164
類型3	1,000	140	162	261	254	183

■ 調査項目

● 属性情報

- | | | |
|---------|------------|-------------|
| 1) 性別 | 5) 現在の就業状況 | 9) 育児・介護の経験 |
| 2) 年齢 | 6) 就業形態 | 10) 世帯年収 |
| 3) 居住地域 | 7) 支障の程度 | |
| 4) 家族構成 | 8) 心身の状態 | |

● 主な意識調査項目

- 1) 地域や職場で障害や病気で困っている者がいたら助けてほしいか・理由
- 2) 過去に地域や職場で障害や病気で困っている者を助けた経験・理由
- 3) 地域で実施したい支援活動
- 4) 地域で受けたい支援活動
- 5) 地域における支え合い活動の展開状況
- 6) 地域における支え合い機能向上において有効な施策
- 7) 生活援助などのサービスの負担のあり方
- 8) 就業希望・就業継続希望
- 9) 治療と仕事を両立すること、または障害を有しながら仕事をするのは困難か
- 10) 仕事をしたくない・続けたくない理由
- 11) 相談機関への相談希望・どのような相談機関に相談してほしいか・相談したくない理由
- 12) 職場への影響

■ 集計上の留意点

本報告書に示す集計数値について、合計数値と内訳数値が、四捨五入の関係で合致しない場合がある。

■ その他

以下、(1)データクリーニングの実施について、(2)楽天リサーチ株式会社のパネルについて - の説明を示す。

(1) データクリーニングの実施について

回答すべき設問に全て回答した場合に限り、本調査の回答者として扱うため、欠損データはない。また、矛盾した回答等は選択できないようにコントロールしているため、データクリーニングは実施していない。

以下に、矛盾した回答等のコントロールの例を示す。

例1) 複数選択可 (マルチアンサー) の 排他的な選択肢

理由を訊く設問において、排他的な選択肢「特に理由はない」と他の選択肢を同時に選択した状態で回答すると、訂正を促すメッセージが表示される。矛盾等がない状態に訂正するまで、回答は受けられない。

例2) 複数選択可 (マルチアンサー) の 選択数の上限

選択できる選択肢の数を 2つまでに制限している設問において、3つ以上の選択肢を選択した状態で回答すると、訂正を促すメッセージが表示される。上限以下 (2つ以下) の状態になるまで、回答は受けられない。

(2) 楽天リサーチ株式会社のパネルについて

□パネルの品質維持の取組

<不正登録者の入会防止>

- ・目視も含めて登録内容をチェックし、不正者は登録時点で排除している。
- ・楽天グループで基本情報を共有し、なりすまし登録をしにくい環境となっている。

<入会後の不正回答者の発見・排除>

- ・入会後に無効になったメールアドレスを、随時チェック・排除している。
- ・月次の全モニターチェックにおいて、重複登録やなりすまし登録を排除している。
- ・矛盾した回答が多いなど、信頼性が低い登録者を特定するためのトラップ調査を、年6回実施し不正回答者を検出している。
- ・受託した各調査において、不正回答者を検出している。
- ・調査に自由回答欄を設けた場合、1件ずつ担当者が目視で不正回答者を検出している。
- ・インタビューなどの対面調査における応募情報や出席時の様子から不正回答者を検出している。

<正しい登録情報の維持>

- ・年に1回以上、登録情報に変更がないか登録者本人に確認している。
- ・登録情報は、常時更新が可能な環境を用意している。

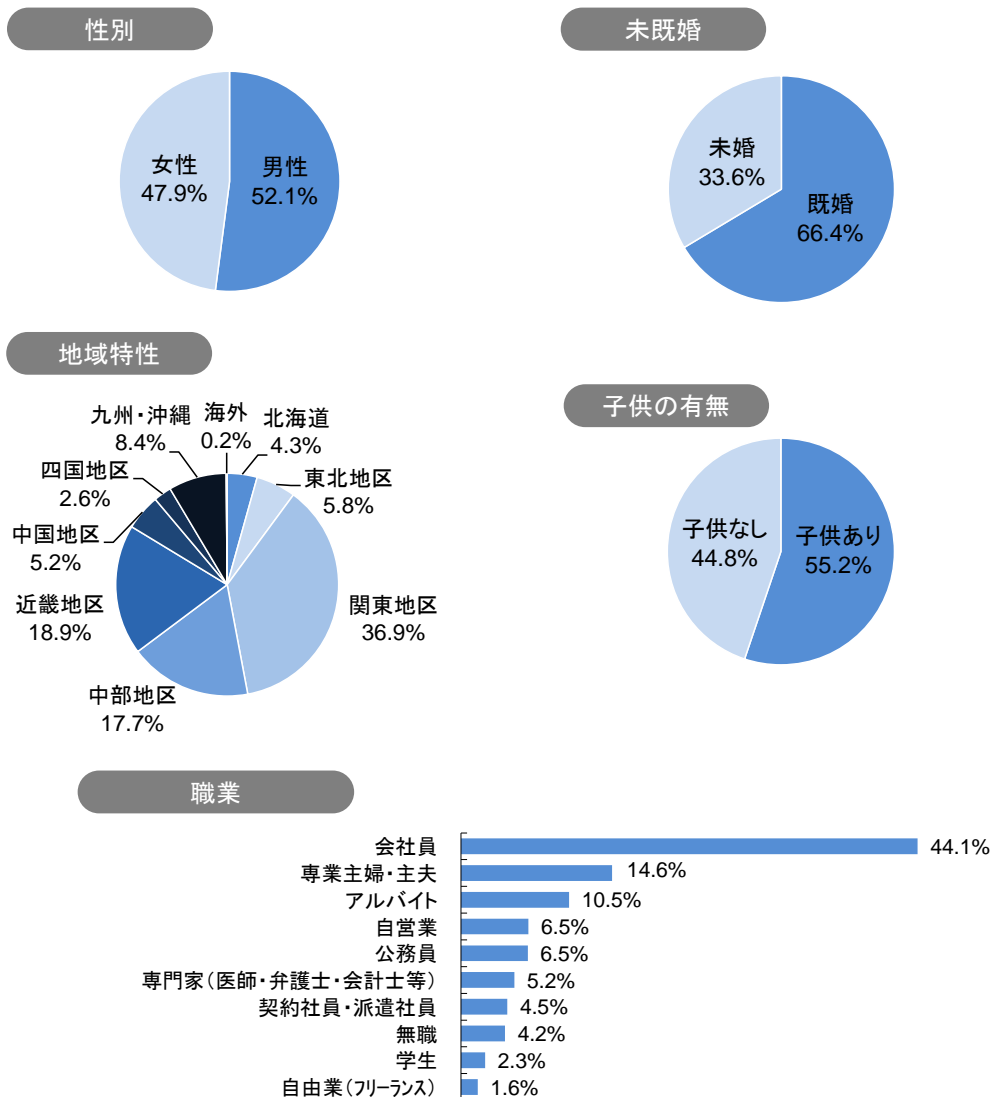
□パネルの募集

楽天市場、楽天トラベル、楽天証券、楽天銀行など楽天グループの様々な商品・サービスの利用者約 10,835 万人（2016 年 3 月末時点の登録会員累積数）からパネルを募集している。

□パネルの特徴

楽天リサーチ株式会社のパネルは 2,272,031 人（2017 年 4 月 1 日時点）。

- ・単一パネルのため、登録者の重複が原則ない。
- ・毎日大量のアンケートが 1 人の登録者に届くことはない。（自発的に調査に参加する「プロ回答者」の防止）



※出典 楽天リサーチ株式会社 ホームページ（<https://research.rakuten.co.jp/member/>）

及び 楽天リサーチ株式会社 “モニタープロフィール（2017 年 4 月 1 日現在）”

第2章 調査結果

1. 各類型の出現率

本調査（スクリーニング調査（2問）、意識調査（24問））の協力依頼の配信数は30万件であり、20,000件に達した時点でスクリーニング調査を締切った。スクリーニング調査の設問への回答内容に従って回答者を下記の3つの類型に分けて、意識調査への回答数が1,000件に達した時点で各類型の意識調査を締切った。

類型1	障害や病気を有する者※
類型2	身近に障害や病気を有する者がいる者（類型1の該当者を除く）
類型3	類型1・類型2以外の者（かつて障害や病気を有していた者を含む）

※日常生活や就労において支障となる心身の事情（障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気）を有している者（ただし風邪や、骨折等の一時的なけがは除く）。

スクリーニング調査の回収率は6.7%（=20,000件/300,000件）であるが、年齢階級別にみると、20代と30代はほぼ同じ回収率であり、40代以上は年齢階級が上がるごとに回収率が高くなる傾向がみられた。また、性別にみると男性の方が女性よりも高くなっているが、20代に限ると女性の回収率の方が高くなっている（図表2-1-1）。

図表 2-1-1 スクリーニング調査における性別・年齢階級別の回収率

単位：人

配信数	男性	女性	合計
20～29歳	27,534	26,130	53,664
30～39歳	32,803	31,853	64,656
40～49歳	40,941	40,042	80,983
50～59歳	33,493	33,450	66,943
60～64歳	16,631	17,123	33,754
合計	151,402	148,598	300,000

スクリーニング調査 単位：人

回収数	男性	女性	合計
20～29歳	1,430	1,675	3,105
30～39歳	2,008	1,659	3,667
40～49歳	3,208	2,108	5,316
50～59歳	2,790	2,310	5,100
60～64歳	1,459	1,353	2,812
合計	10,895	9,105	20,000

(回収率) = (回収数) / (配信数)

回収率	男性	女性	合計
20～29歳	5.2%	6.4%	5.8%
30～39歳	6.1%	5.2%	5.7%
40～49歳	7.8%	5.3%	6.6%
50～59歳	8.3%	6.9%	7.6%
60～64歳	8.8%	7.9%	8.3%
合計	7.2%	6.1%	6.7%

スクリーニング調査の各類型の出現率は、「類型1 障害や病気を有する者（以下「①障害・有病者」という）」が13.5%、「類型2 身近に障害や病気を有する者がいる者（以下「②身近にいる者」という）」が22.8%、「類型3 その他の者（以下「③その他の者」という）」が63.7%であった。年齢階級別にみると、類型1の出現率については大きな差はないが、類型2については20代・30代が高く40代以上が低くなる傾向があり、類型3では逆に20代・30代が低く40代以上で高くなる傾向がみられた（図表2-1-2）。

図表 2-1-2 スクリーニング調査における年齢階級別の各類型の出現率

年齢階級	類型1	類型2	類型3	合計
20～29歳	423 13.6%	811 26.1%	1,871 60.3%	3,105 100.0%
30～39歳	465 12.7%	930 25.4%	2,272 62.0%	3,667 100.0%
40～49歳	727 13.7%	1,138 21.4%	3,451 64.9%	5,316 100.0%
50～59歳	709 13.9%	1,103 21.6%	3,288 64.5%	5,100 100.0%
60～64歳	374 13.3%	576 20.5%	1,862 66.2%	2,812 100.0%
合計	2,698 13.5%	4,558 22.8%	12,744 63.7%	20,000 100.0%

2. 公表統計データとの比較

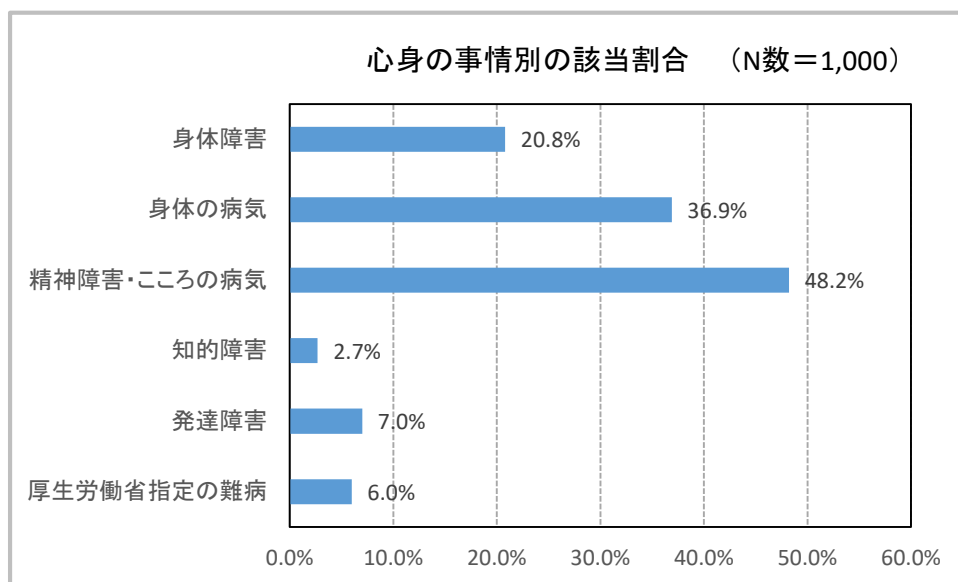
内閣府「平成29年版 障害者白書」の障害者の状況から、平成23年における障害者数を整理した表を以下に示す（以下、“公表統計データ”）。また、①障害・有病者での障害や病気の該当割合を図表2-2-1に示す。

公表統計データでは、身体障害者数は知的障害者数の約2.7倍となっているが、①障害・有病者では約7.7倍となっている。本調査はインターネット調査の登録モニターを対象としていることから、知的障害者の割合が低くなっていると考えられる。

障害者の区分	年齢階級	障害者数
身体障害児・者(在宅)	18～64歳	1,111
知的障害児・者(在宅)	18～64歳	408
精神障害者・外来	20～64歳	2,023

(出典)内閣府「平成29年版 障害者白書」

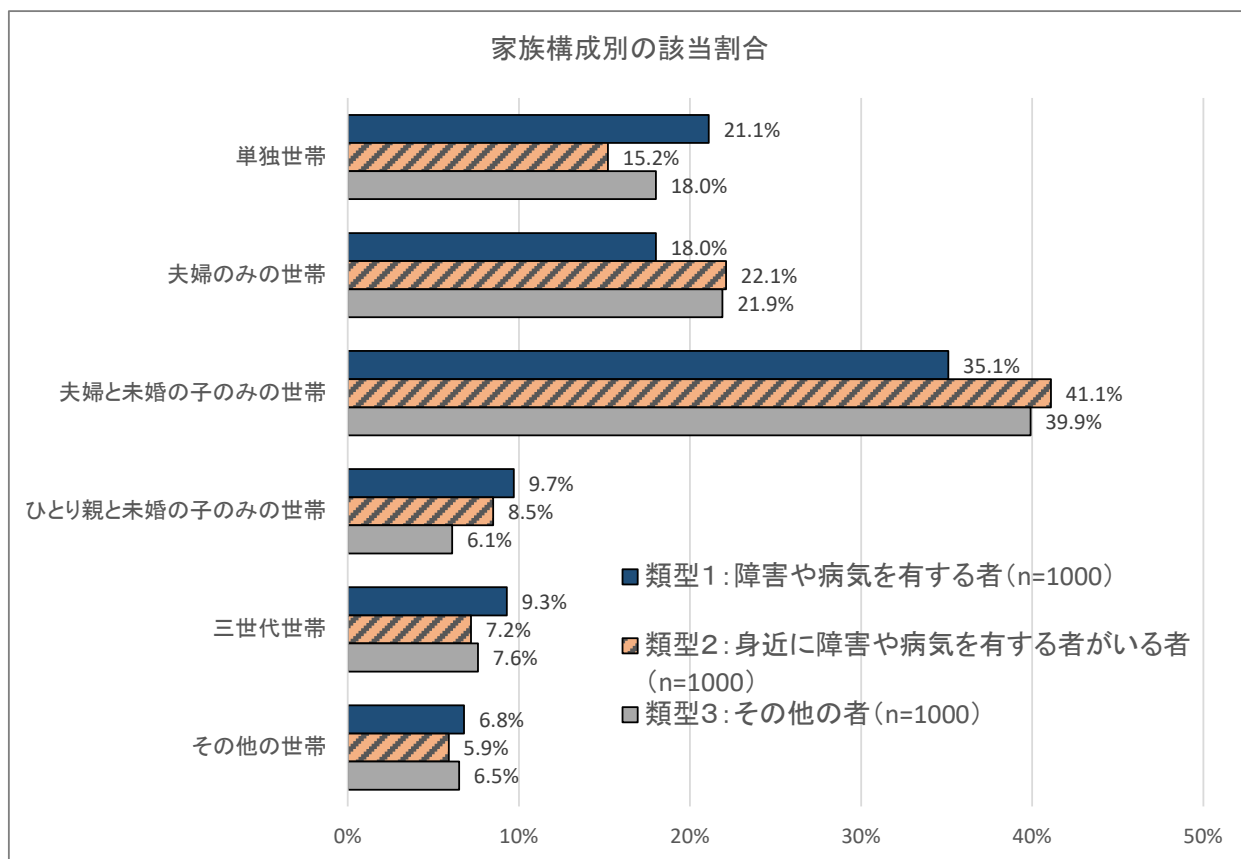
図表 2-2-1 ①障害・有病者の該当者の心身の事情



3. 回答者の特性

単独世帯は、①障害・有病者が 21.1%、②身近にいる者が 15.2%、③その他の者が 18.0% となっており、①障害・有病者が他類型と比較するとやや高い傾向にあることがわかる。一方、夫婦のみ世帯及び夫婦と未婚の子のみ世帯の合計をみると、①障害・有病者が 53.1%、②身近にいる者が 63.2%、③その他の者が 61.8%となっている（図表 2-3-1）。

図表 2-3-1 各類型の家族構成



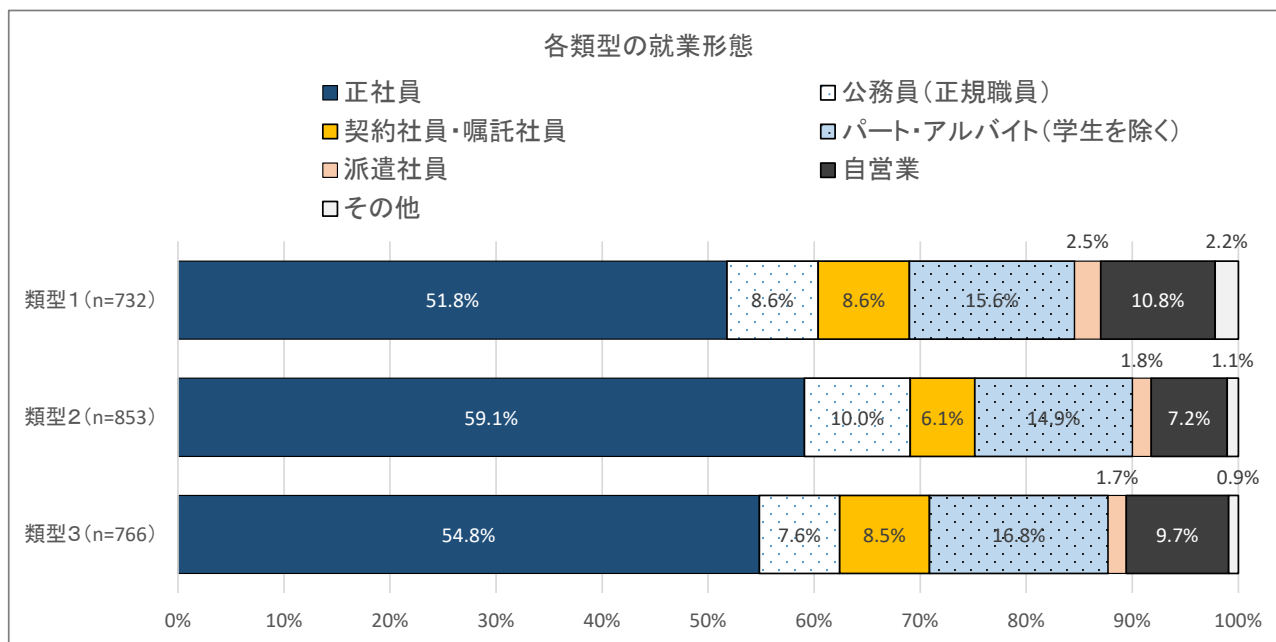
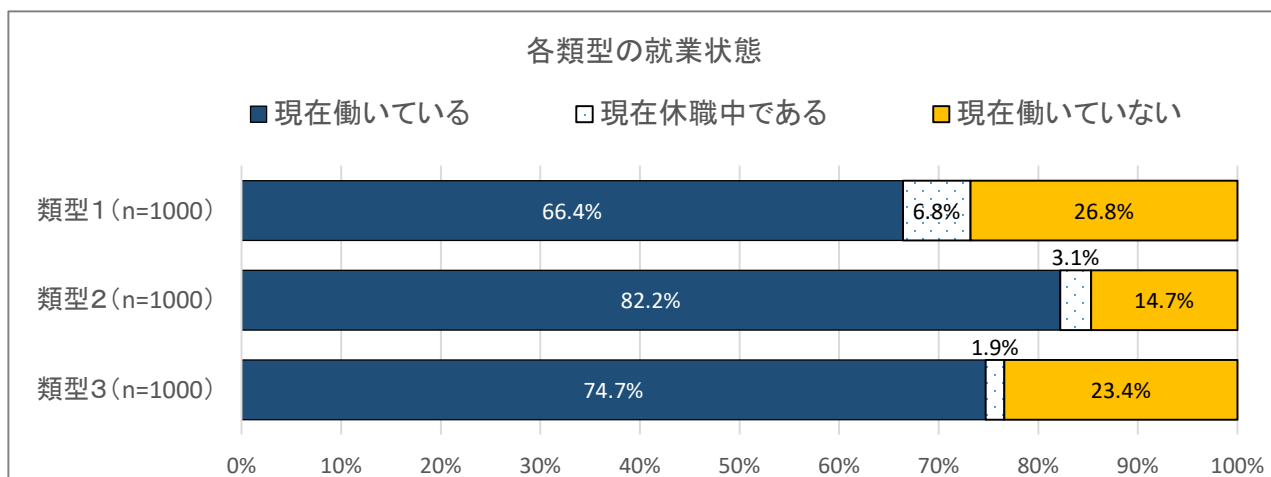
各類型の就業状態を見ると、「現在働いている」者は、①障害・有病者のうち 66.4%、②身近にいる者のうち 82.2%、③その他の者のうち 74.7%となっており、①障害・有病者は他類型と比較すると、就業が難しい状況にあることがわかる。

また、「現在働いている」及び「現在休職中である」者に就業形態を聞いたところ、正規雇用^{※1}は①障害・有病者のうち 60.4%、②身近にいる者のうち 69.1%、③その他の者のうち 62.4%となっている。一方で、非正規雇用^{※2}は、①障害・有病者のうち 26.6%、②身近にいる者のうち 22.7%、③その他の者のうち 27.0%となっている（図表 2-3-2）。

※1. 「正規雇用」とは、「正社員」、「公務員（正規職員）」のことである。

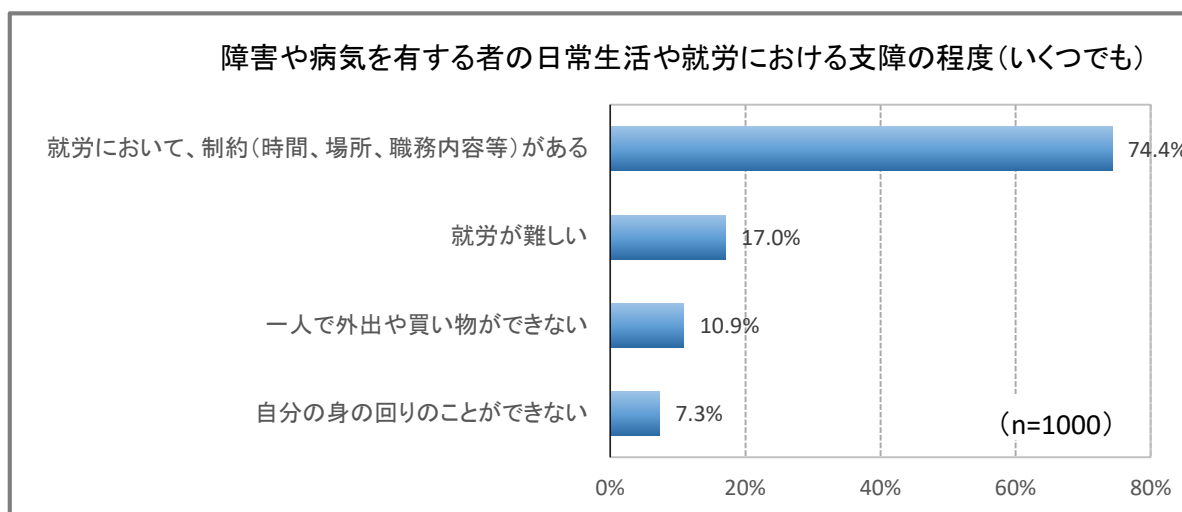
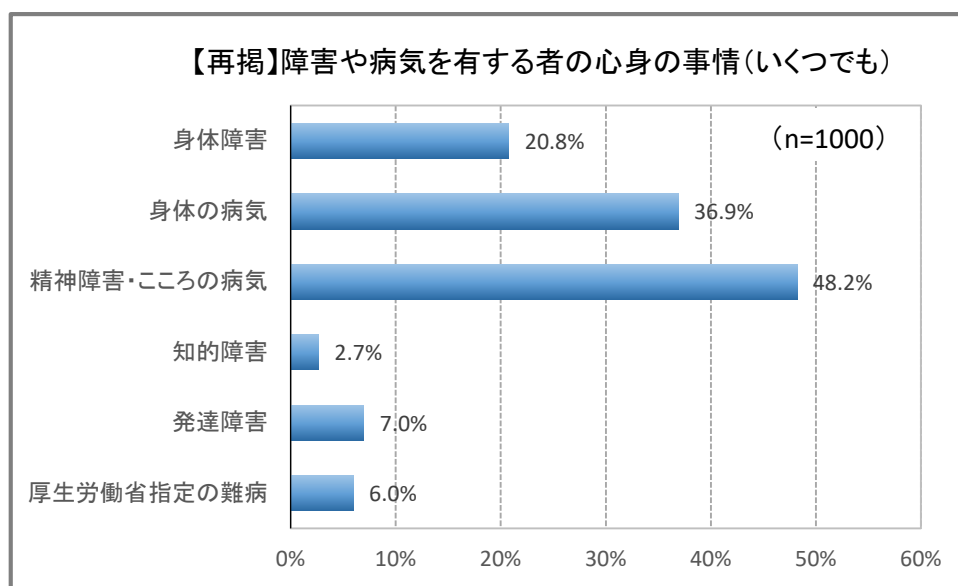
※2. 「非正規雇用」とは、「契約社員・嘱託社員」、「パート・アルバイト（学生を除く）」、「派遣社員」である。

図表 2-3-2 各類型の就業状態と就業形態



①障害・有病者に障害や病気の種別について聞いたところ、「精神障害・こころの病気」が48.2%、「身体の病気」が36.9%、「身体障害」が20.8%となっている。障害・有病者の支障の程度について見てみると、「就労において制約（時間、場所、職務内容等）がある」が74.4%、次いで「就労が難しい」が17.0%、「一人で外出や買い物ができない」が10.9%、「自分の身の回りのことができない」が7.3%となっている。（図表 2-3-3）。

図表 2-3-3 ①障害・有病者の心身の事情と支障の程度

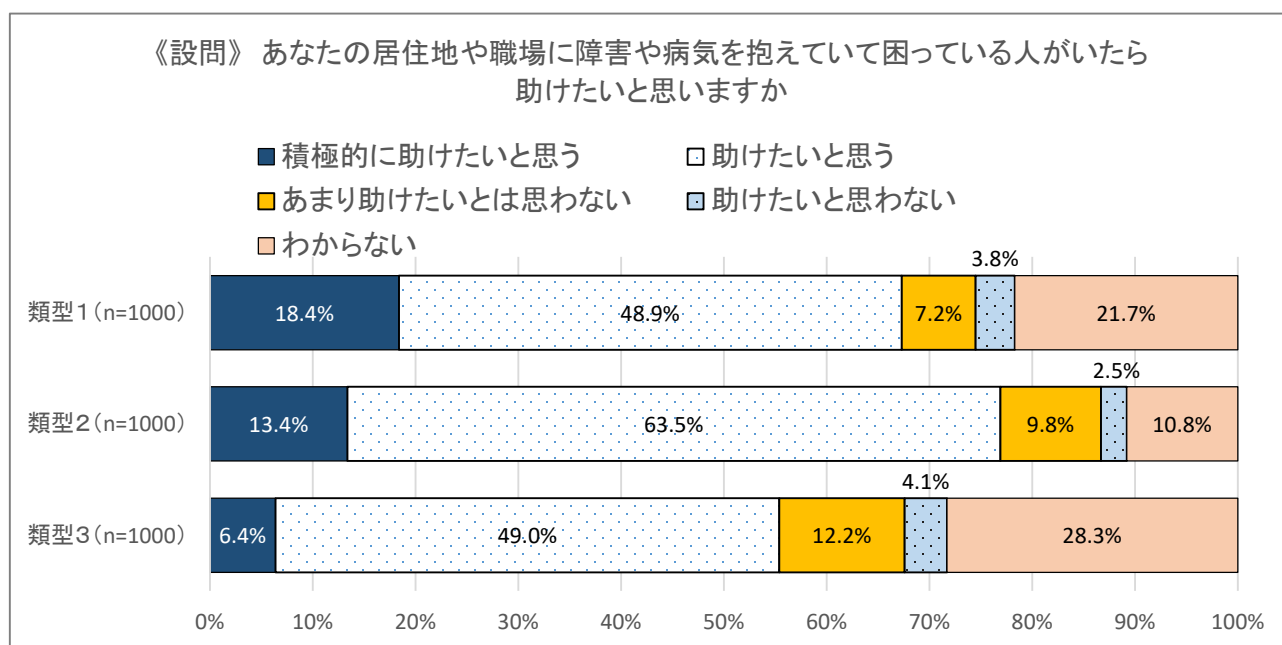


4. 地域での支え合いに関する意識

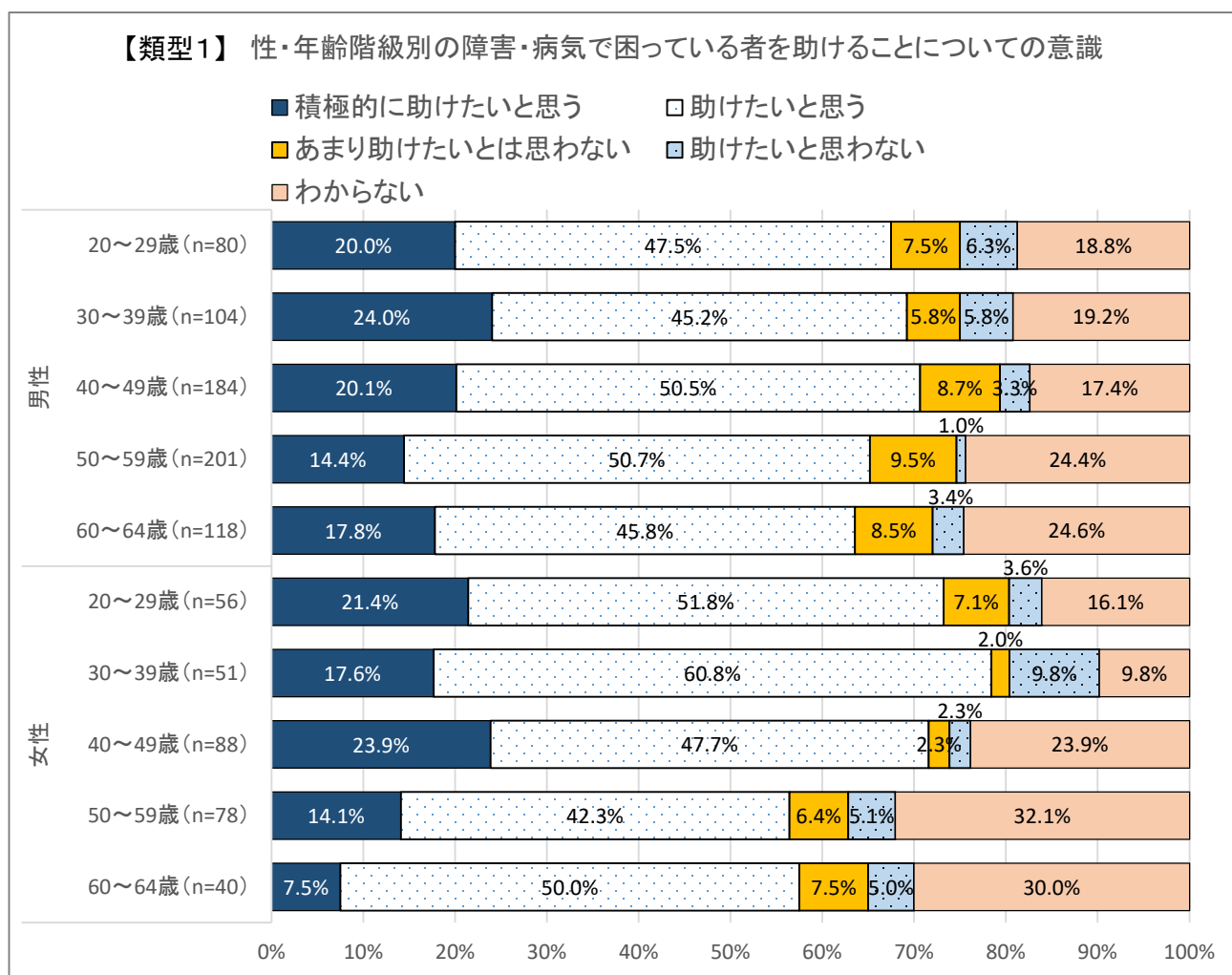
(1) 地域や職場で障害や病気で困っている者がいたら助けたいと思うか

地域や職場で障害や病気を有していて困っている者がいたら助けたいと思うかを聞いたところ、「積極的に助けたいと思う」及び「助けたいと思う」と答えた者の合計は、②身近にいる者では76.9%と最も多く、次いで①障害・有病者では67.3%、③その他の者では55.4%となっている。③その他の者では、「あまり助けたいとは思わない」及び「助けたいとは思わない」の合計は16.3%にとどまるが、「わからない」と答えた者が約3割を占める(図表2-4-1)。

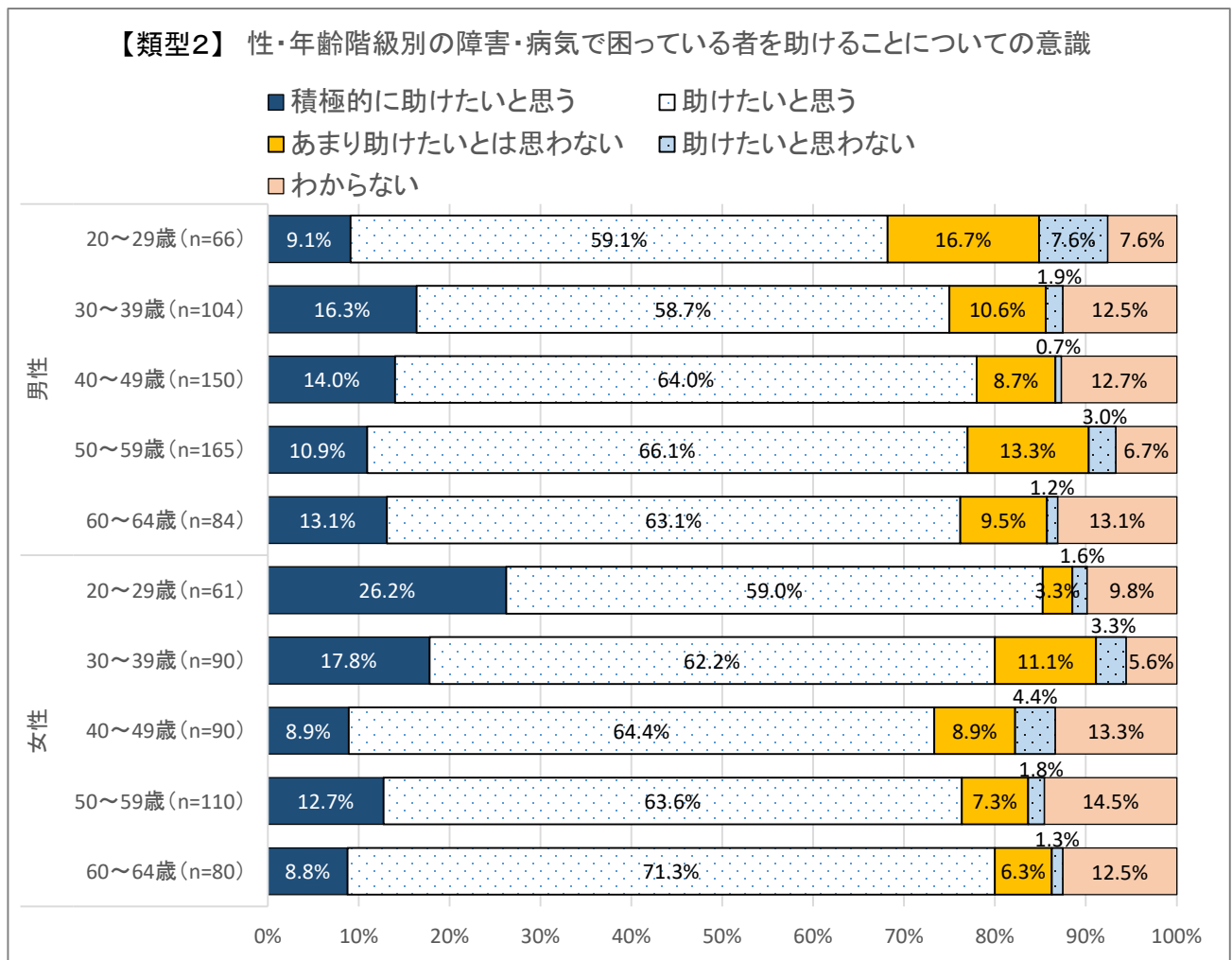
図表 2-4-1(1/6) 地域や職場で障害や病気で困っている者がいたら助けたいか・理由



図表 2-4-1(2/6) 地域や職場で障害や病気で困っている者がいたら助けていか・理由

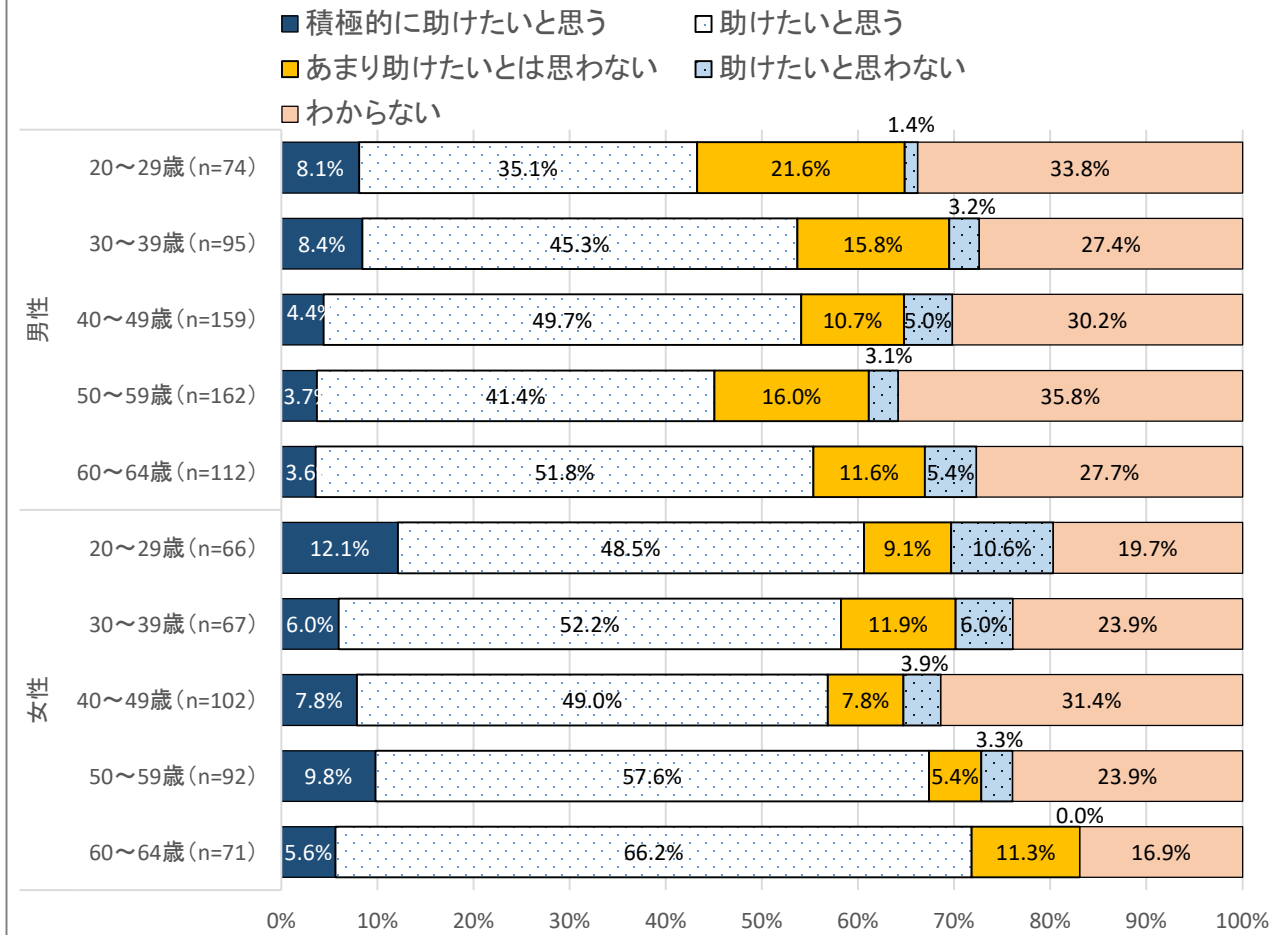


図表 2-4-1(3/6) 地域や職場で障害や病気で困っている者がいたら助けていか・理由

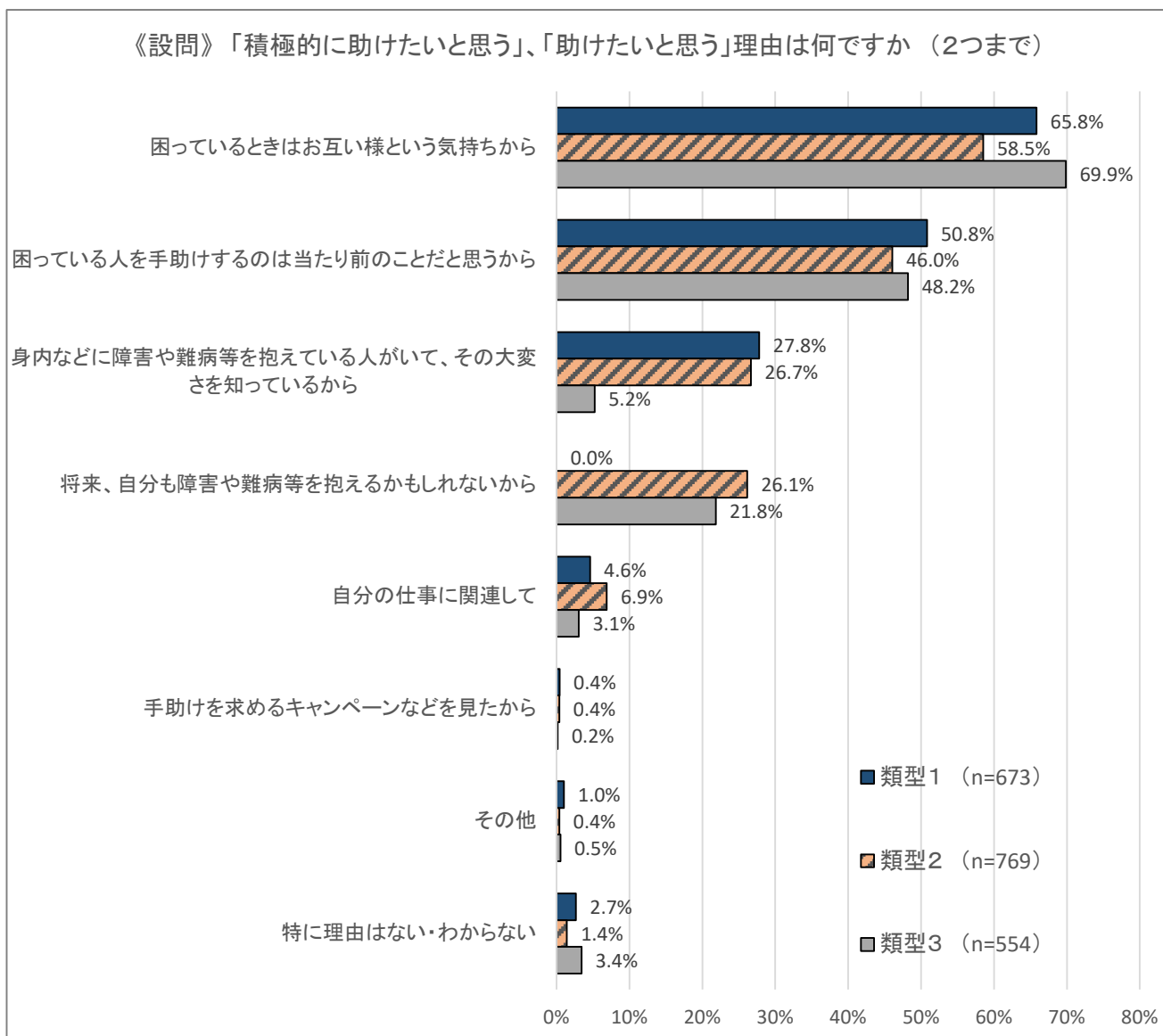


図表 2-4-1(4/6) 地域や職場で障害や病気で困っている者がいたら助けていか・理由

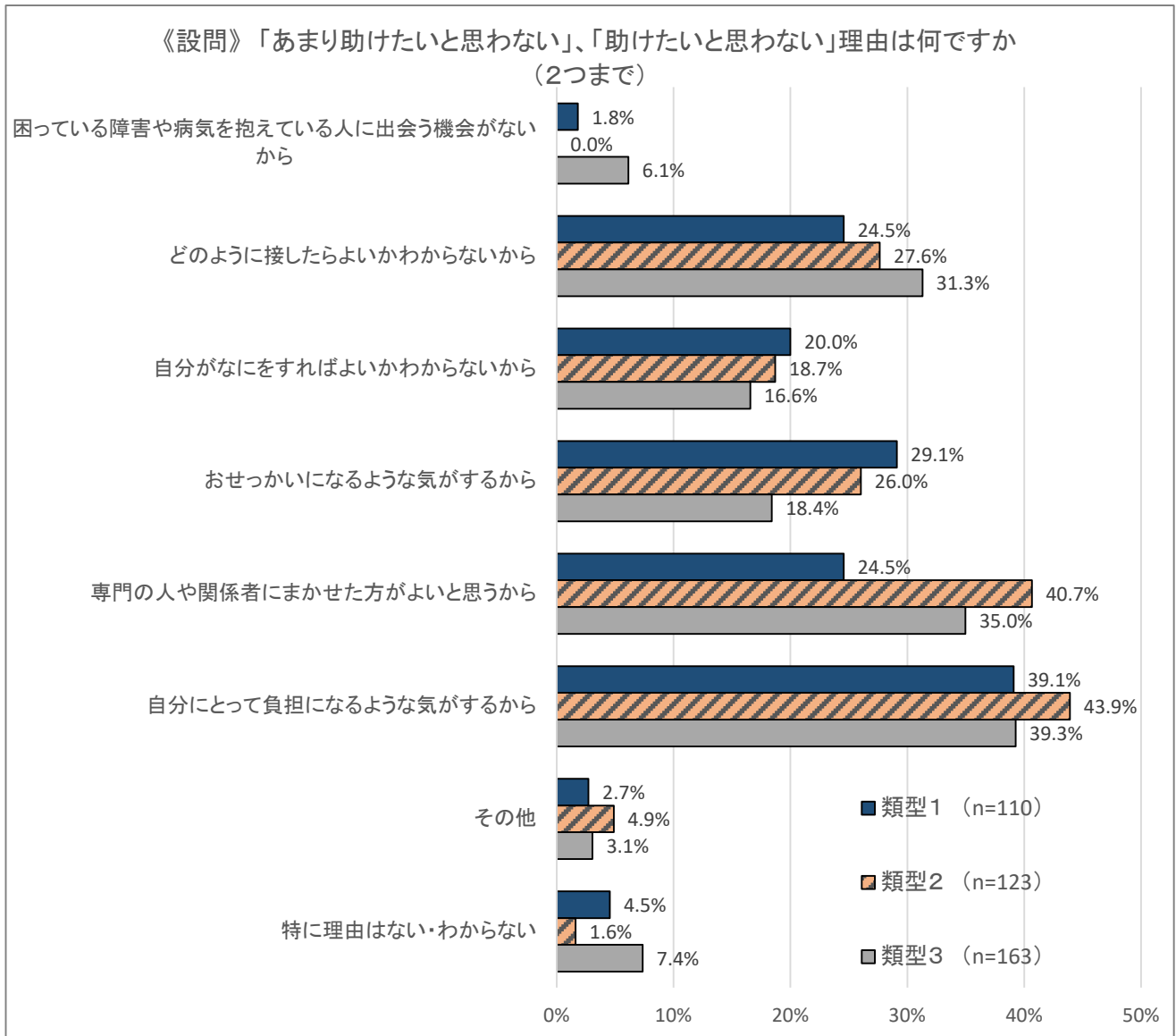
【類型3】 性・年齢階級別の障害・病気で困っている者を助けることについての意識



図表 2-4-1(5/6) 地域や職場で障害や病気で困っている者がいたら助けていか・理由

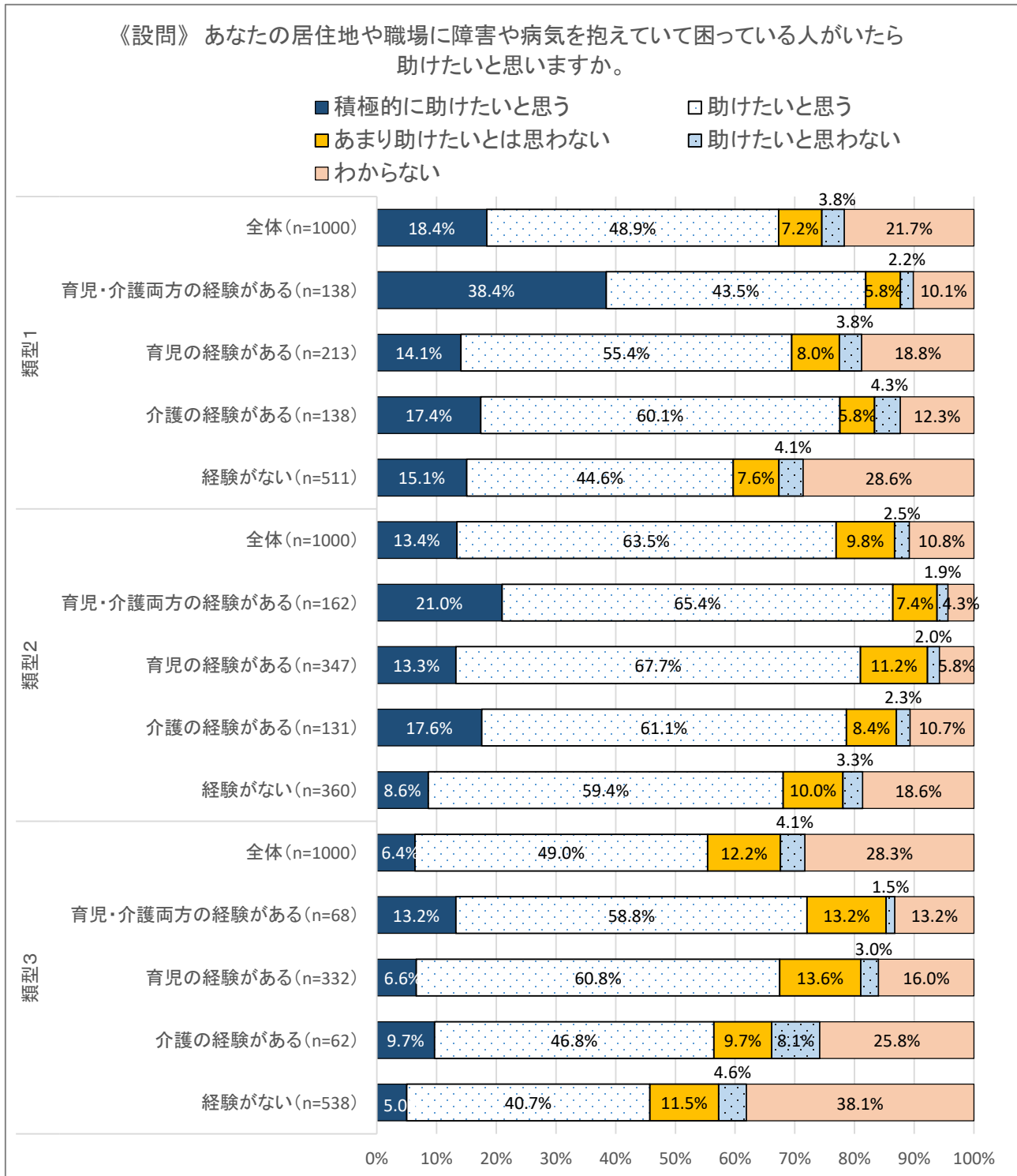


図表 2-4-1(6/6) 地域や職場で障害や病気で困っている者がいたら助けていか・理由



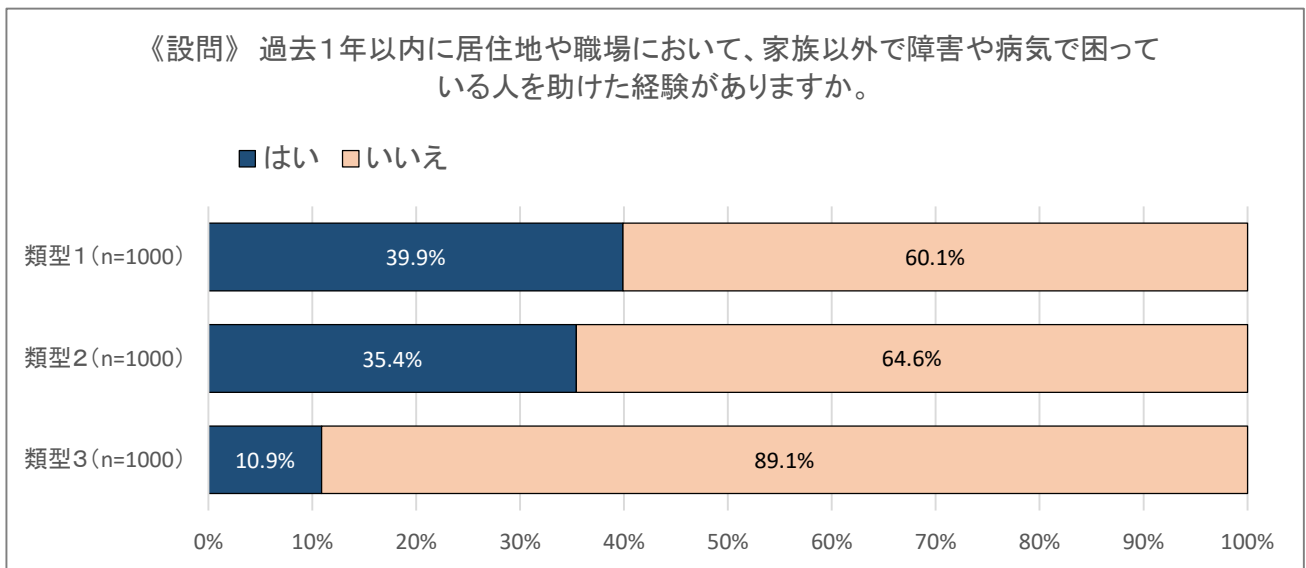
育児・介護の経験別に、障害や病気で困っている者を助けることについての意識をクロス集計すると、どの類型においても育児や介護の経験があると答えた者の「積極的に助けたいと思う」及び「助けたいと思う」の割合は、「経験がない」者よりも高くなっている（図表 2-4-2）。

図表 2-4-2 育児・介護の経験別の障害や病気で困っている者を助けることについての意識



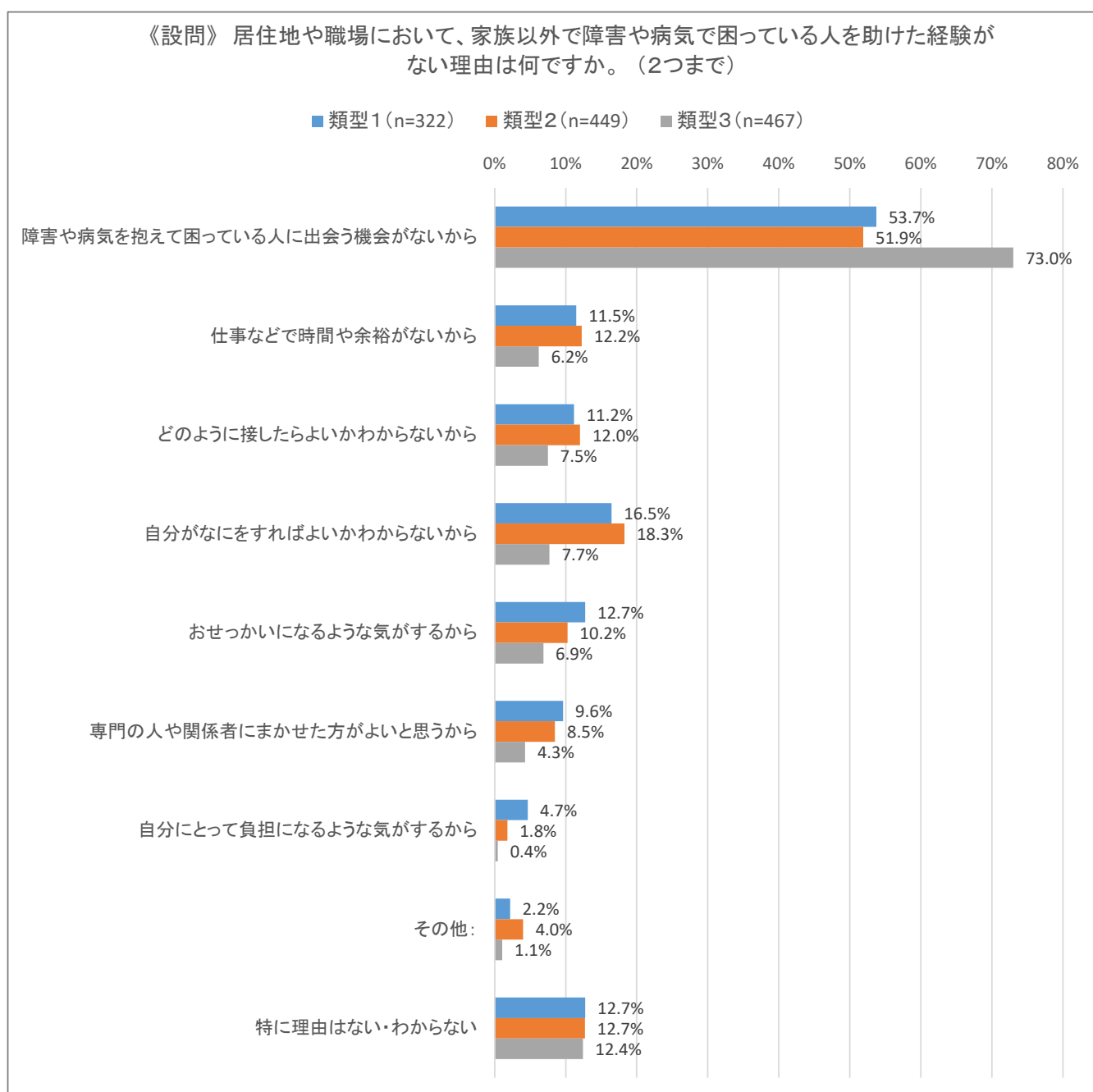
過去1年以内に居住地や職場において、家族以外で障害や病気で困っている者を助けた経験があるかを尋ねたところ、助けた経験があると答えた者は①障害・有病者が39.9%、②身近にいる者が35.4%、③その他の者が10.9%となっており、前述の助けたいと思いを持つ者の割合に対し実際に助けた経験がない者の割合が多いことがわかる（図表2-4-3）。

図表 2-4-3 過去に障害や病気で困っている人を助けた経験の有無



助け合いの意識で「積極的に助けたいと思う」及び「助けたいと思う」を選択したが、実際に助けた経験は「ない」と答えた者の割合は、①障害・有病者が32.2%、②身近にいる者が44.9%、③その他の者が46.7%となっており、その理由としては「障害や病気を抱えて困っている人に出会う機会がないから」が最多となっている（図表 2-4-4）。

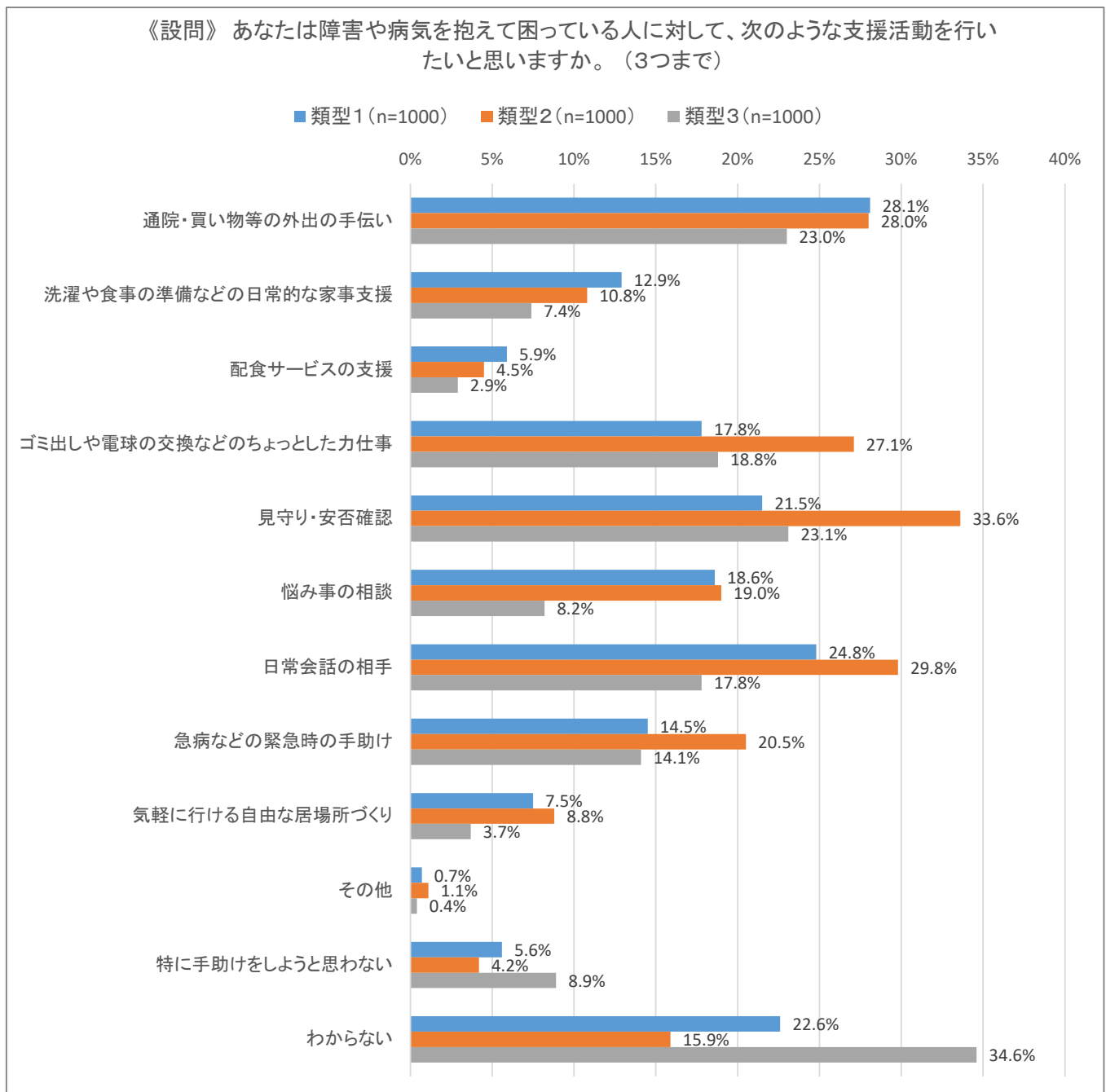
図表 2-4-4 助けたいと思いつながら過去に助けた経験がない理由



(2) 実施したいと思う支援活動と支え合い機能向上に有効だと思う施策

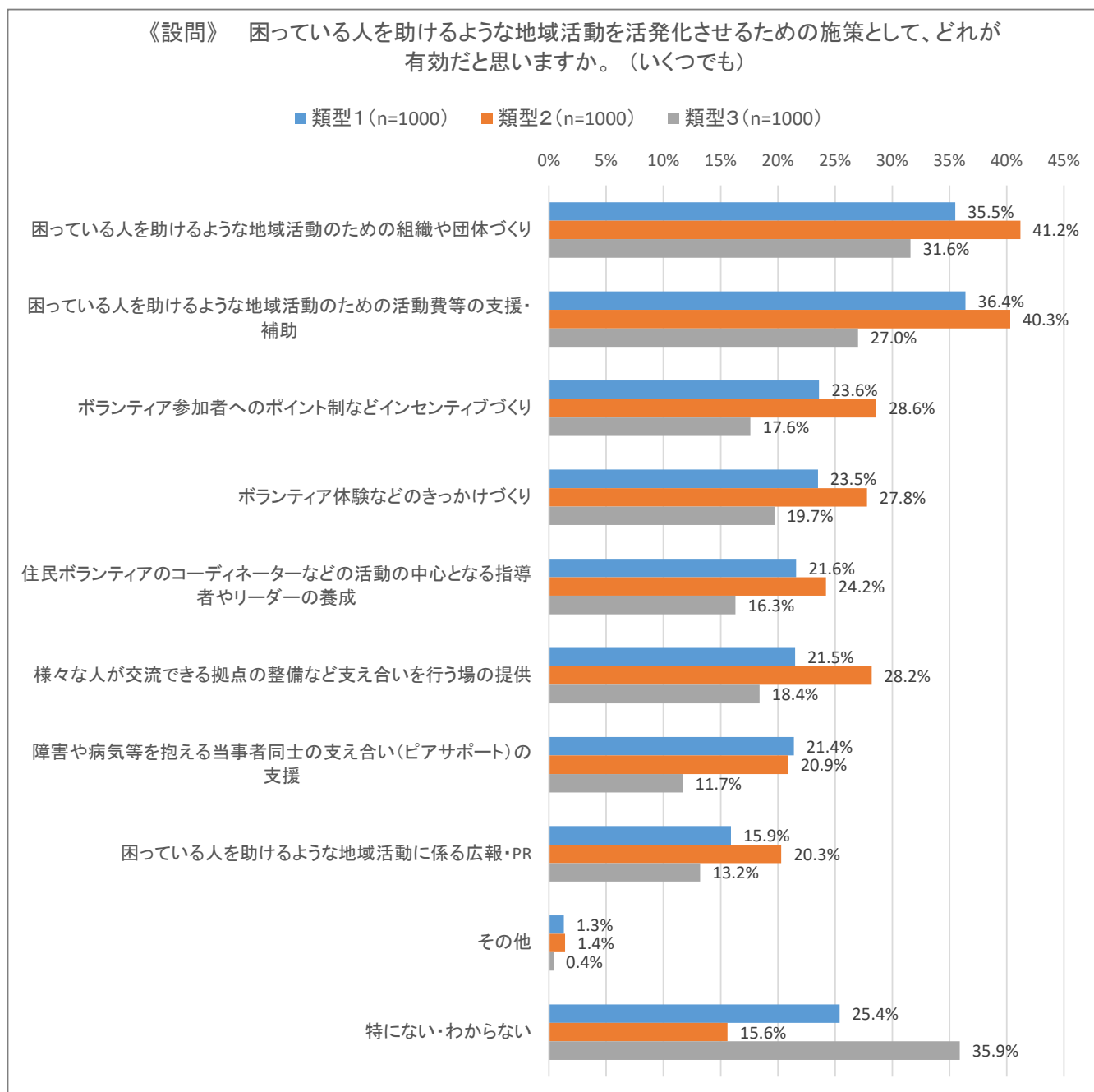
自分が実施したいと思う支援活動について尋ねたところ、実施したいと思う支援活動の内容では、②身近にいる者の「見守り・安否確認」が33.6%と最も多く、次いで②身近にいる者の「日常会話の相手」が29.8%、①障害・有病者の「通院・買い物等の外出の手伝い」が28.1%となっている（図表 2-4-5）。

図表 2-4-5 実施したいと思う支援活動



地域での支え合い機能向上のため有効だと思う施策を尋ねたところ、「困っている人を助けるような地域活動のための組織や団体づくり」、「困っている人を助けるような地域活動のための活動費等の支援・補助」との回答が相対的に多かった（図表 2-4-6）。

図表 2-4-6 支え合い機能向上のため有効と思う施策

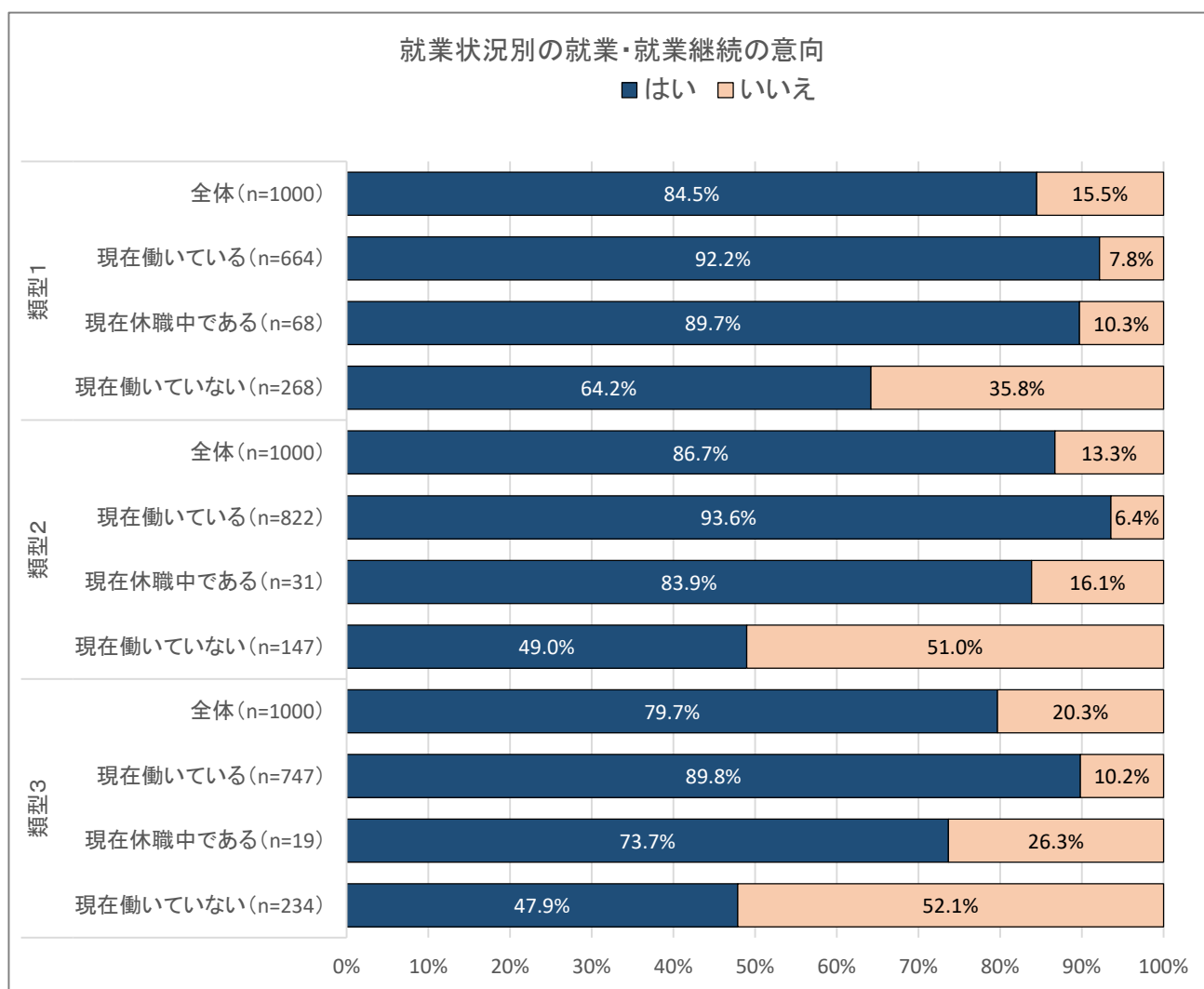


5. 就労などに関する意識

(1) 治療と仕事を両立することや障害を有しながら働くことは可能か

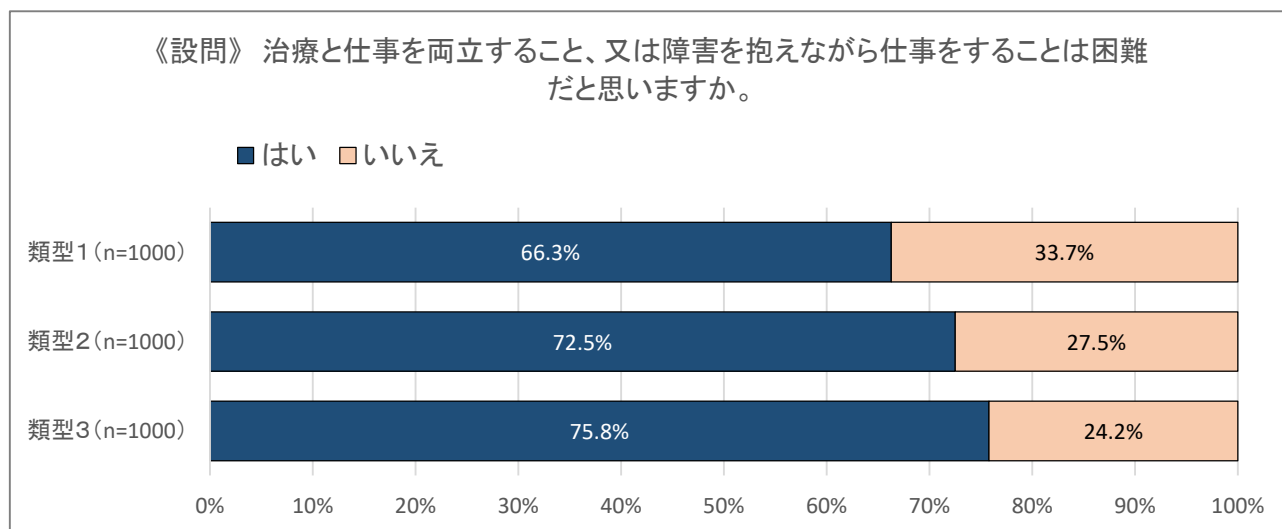
就業状態別の就業・就業継続の意向を見ると、現在の就業状態にかかわらず、①障害・有病者は③その他の者よりも就業・就業継続の意向が強い傾向にある。特に、「現在働いていない」と回答した群では、「仕事をしたい又は続けたい」とする者の割合について、①障害・有病者が64.2%と最も高くなっており、②身近にいる者よりも15.2%ポイント、③その他の者よりも16.3%ポイント高くなっており、障害・病気のために仕事をしたいと思いつつも就業していない者が存在するのではないかと考えられる（図表2-5-1）。

図表 2-5-1 就業状態別の就業・就業継続の意向



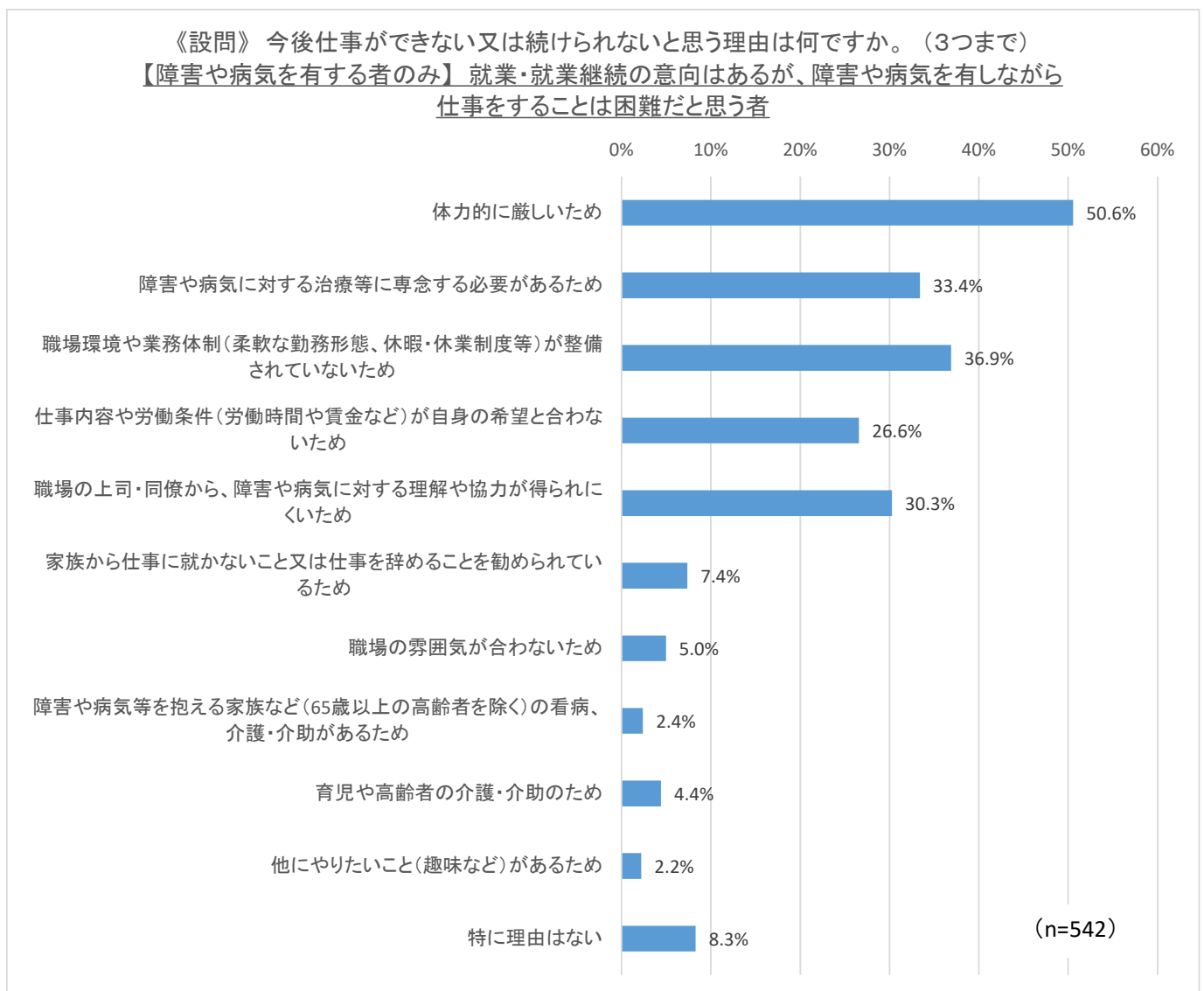
治療と仕事を両立すること、または障害を有しながら仕事をするのは困難かを尋ねたところ、困難であるとする者の割合が、①障害・有病者の66.3%、②身近にいる者の72.5%に対し、③その他の者の75.8%が最も高くなっている（図表2-5-2）。

図表2-5-2 治療と仕事を両立すること又は障害を有しながら仕事をするのは困難か



①障害・有病者で「仕事をしたい」及び「仕事を続けたい」と回答した者のうち、治療と仕事を両立すること、または障害を有しながら仕事をするには「困難である」と回答した者に対して、その理由を尋ねたところ、「体力的に厳しいため」が50.6%と最も多く、次いで「職場環境や業務体制（柔軟な勤務形態、休暇・休業制度等）が整備されていないため」が36.9%、「障害や病気に対する治療等に専念する必要があるため」が33.4%となっている（図表 2-5-3）。

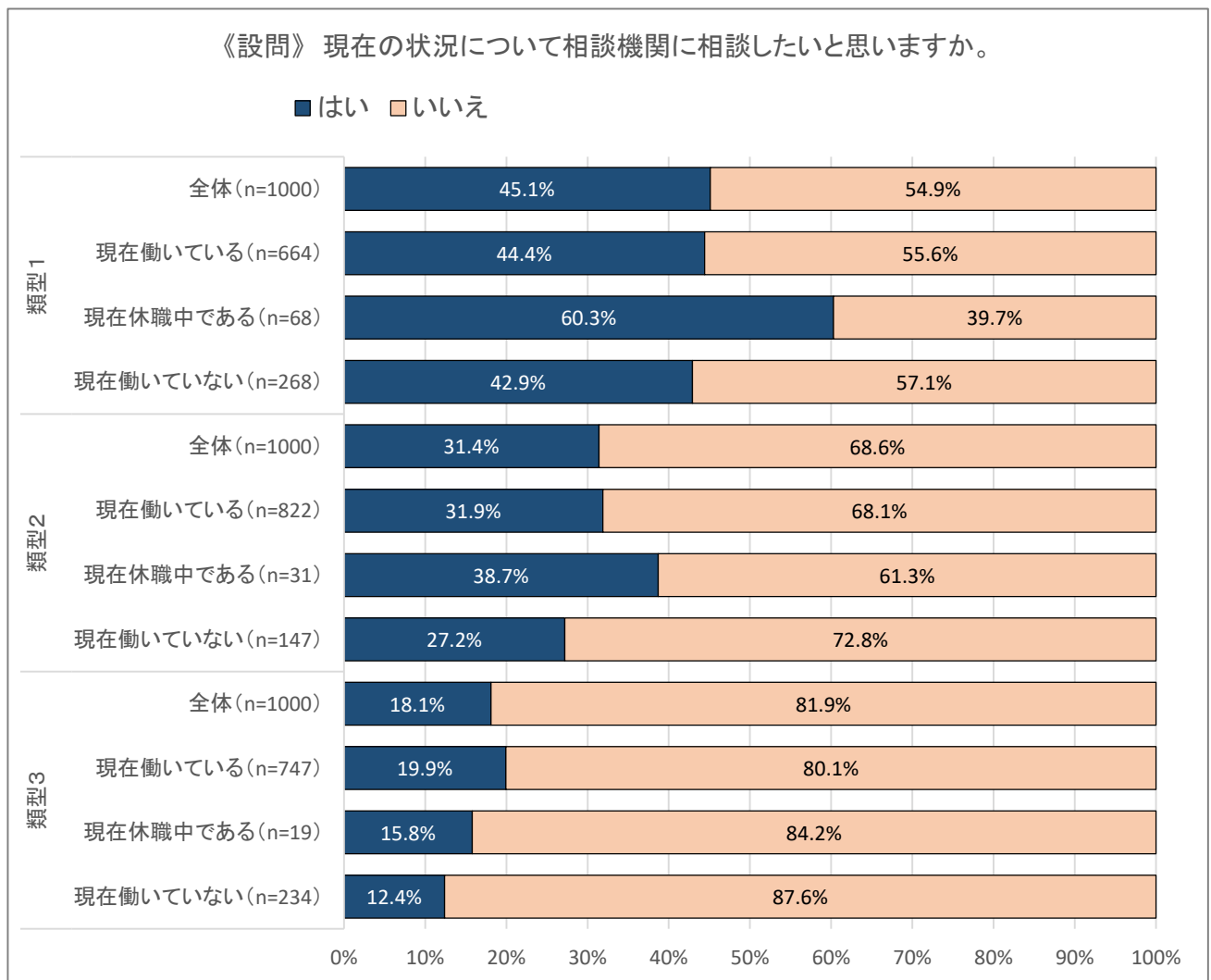
図表 2-5-3 今後仕事ができない・続けられないと思う理由



(2) 相談しやすい環境づくり

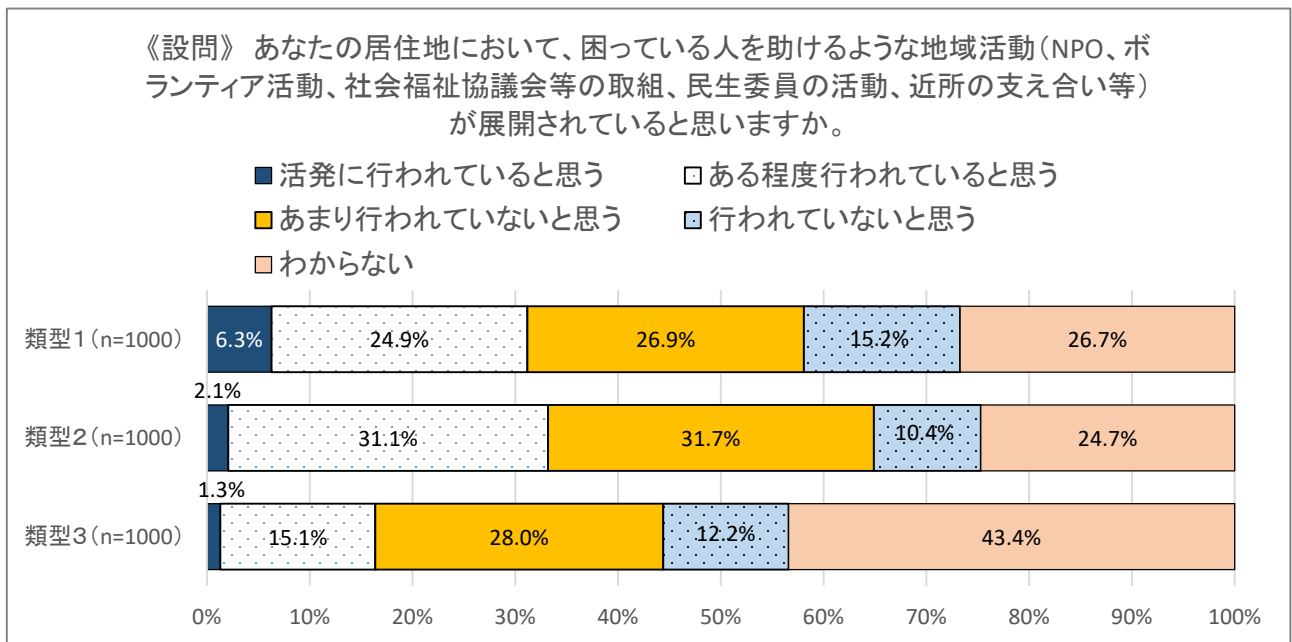
現在の状況について相談機関に相談したいかを尋ねると、①障害・有病者において相談したいと思う者の割合が45.1%と最も多く、②身近にいる者よりも13.7%ポイント、③その他の者よりも27.0%ポイント高くなっている（図表 2-5-4）。

図表 2-5-4 就業状況別の相談機関への相談希望



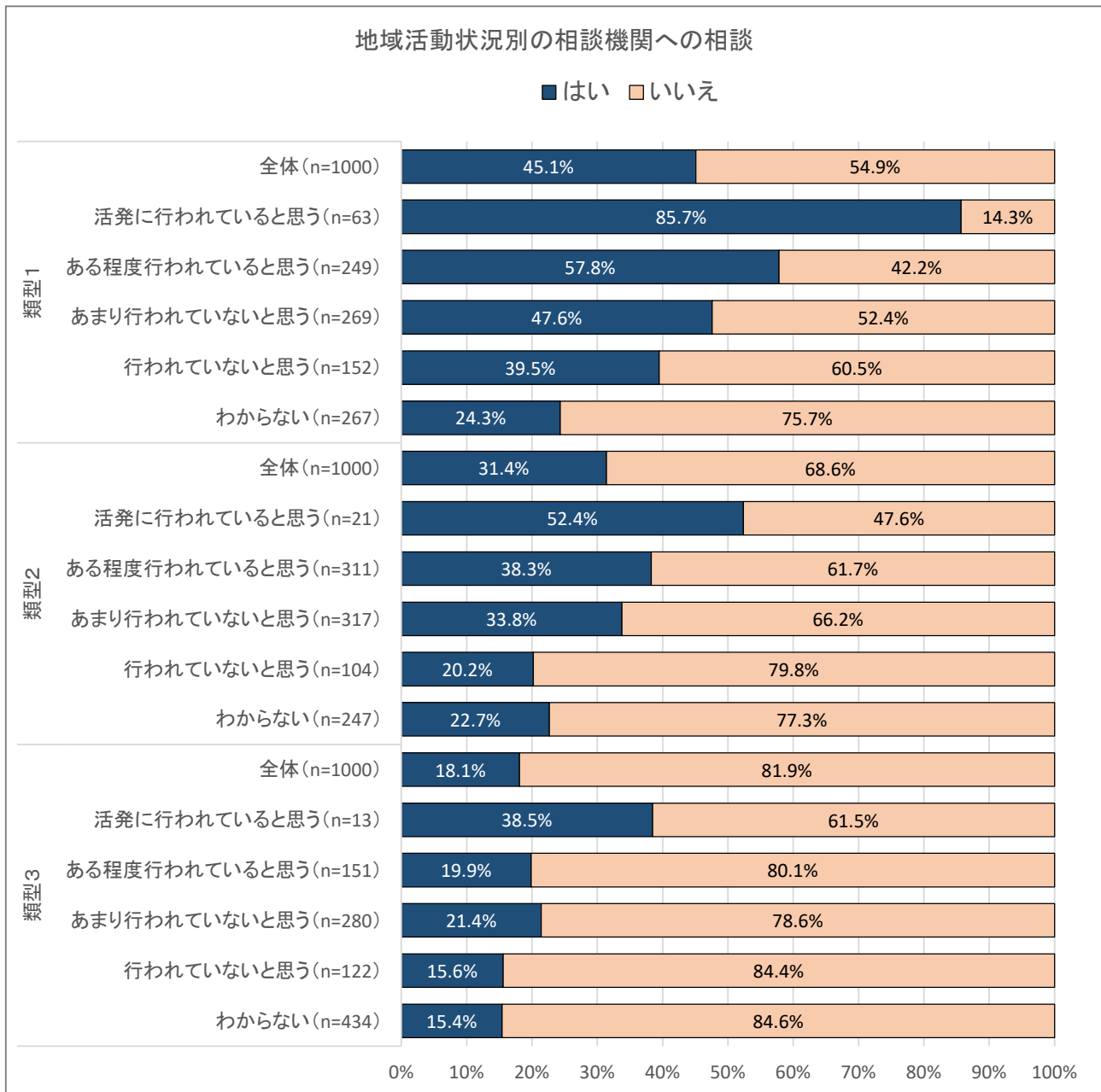
地域活動の状況について尋ねたところ、「活発に行われていると思う」及び「ある程度行われていると思う」と回答した者の割合が、①障害・有病者と②身近にいる者では30%を超えているのに対し、③その他の者では約半数の16.4%にとどまっている。一方、「わからない」と回答した者は①障害・有病者と②身近にいる者では約4分の1、③その他の者では43.4%を占める。困難に直面していない者はもとより、当事者やその周辺の者であっても、地域での支え合いの活動についての意識が希薄であることがうかがえる（図表2-5-5）。

図表 2-5-5 地域活動の展開状況への所感



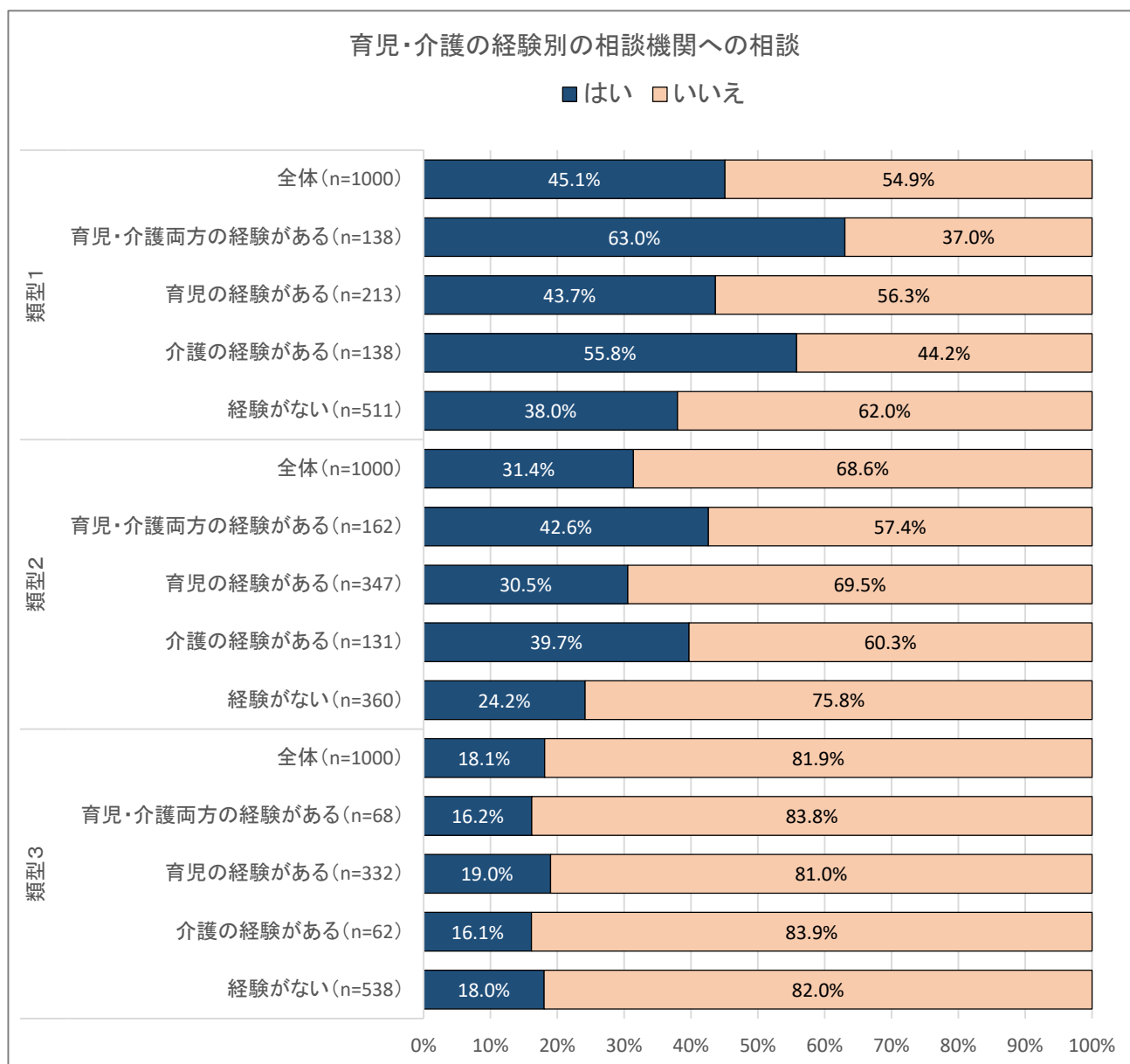
相談機関への相談希望とクロス集計をすると、いずれの類型においても、地域活動が「活発に行われていると思う」と回答した群において、「相談したいと思う」と回答した者の割合が最も高くなっている（図表 2-5-6）。

図表 2-5-6 地域活動の展開状況への所感と相談機関への相談希望



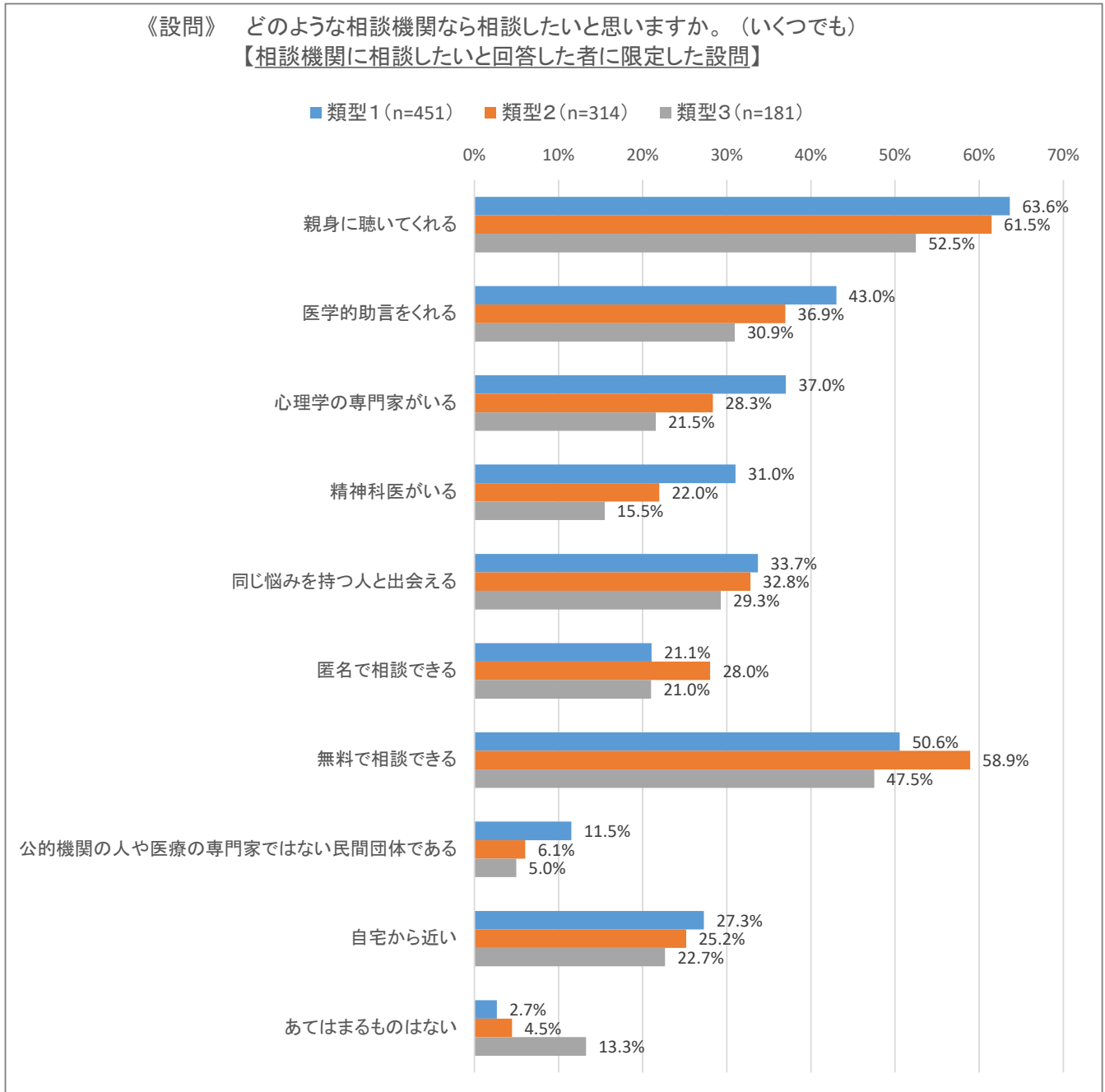
育児・介護の経験別にみると、①障害・有病者と②身近にいる者において「育児・介護両方の経験がある」及び「介護の経験がある」で相談機関に相談したいと回答する割合が高くなっており、かつての介護時に相談窓口の利用やケアマネジャー等への相談をした経験が、相談に踏み出しやすくしているのではないかと推察できる（図表 2-5-7）。

図表 2-5-7 育児・介護の経験と相談機関への相談希望



現在の状況について「相談機関に相談したい」と回答した者に対し、どのような相談機関に相談したいかを尋ねたところ、どの類型においても「親身に聴いてくれる」が最も多く、次いで「無料で相談できる」、「医学的助言をくれる」となっている（図表 2-5-8）。

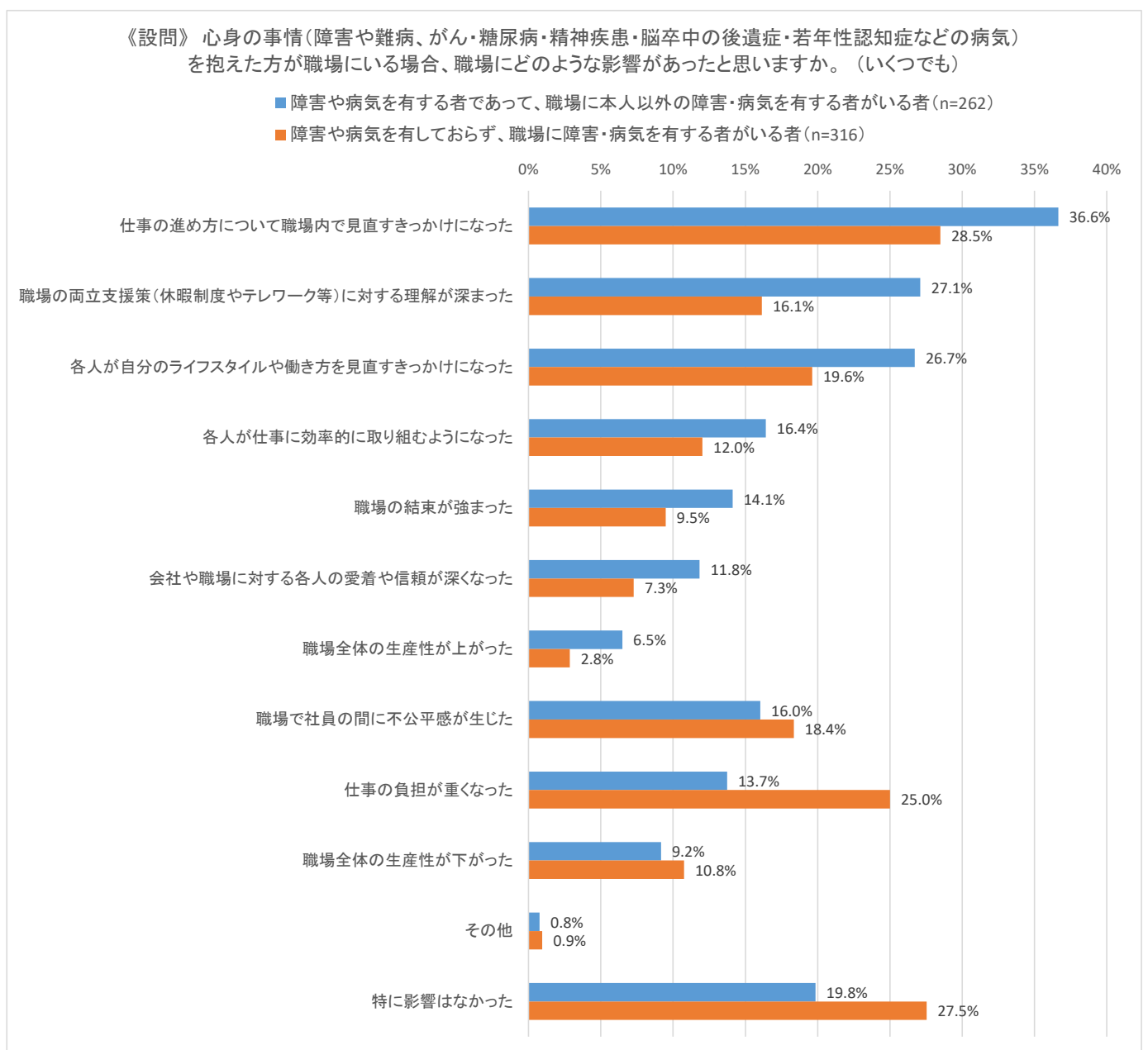
図表 2-5-8 どのような相談機関に相談したいか



(3) 多様性のある包摂的な職場環境とは

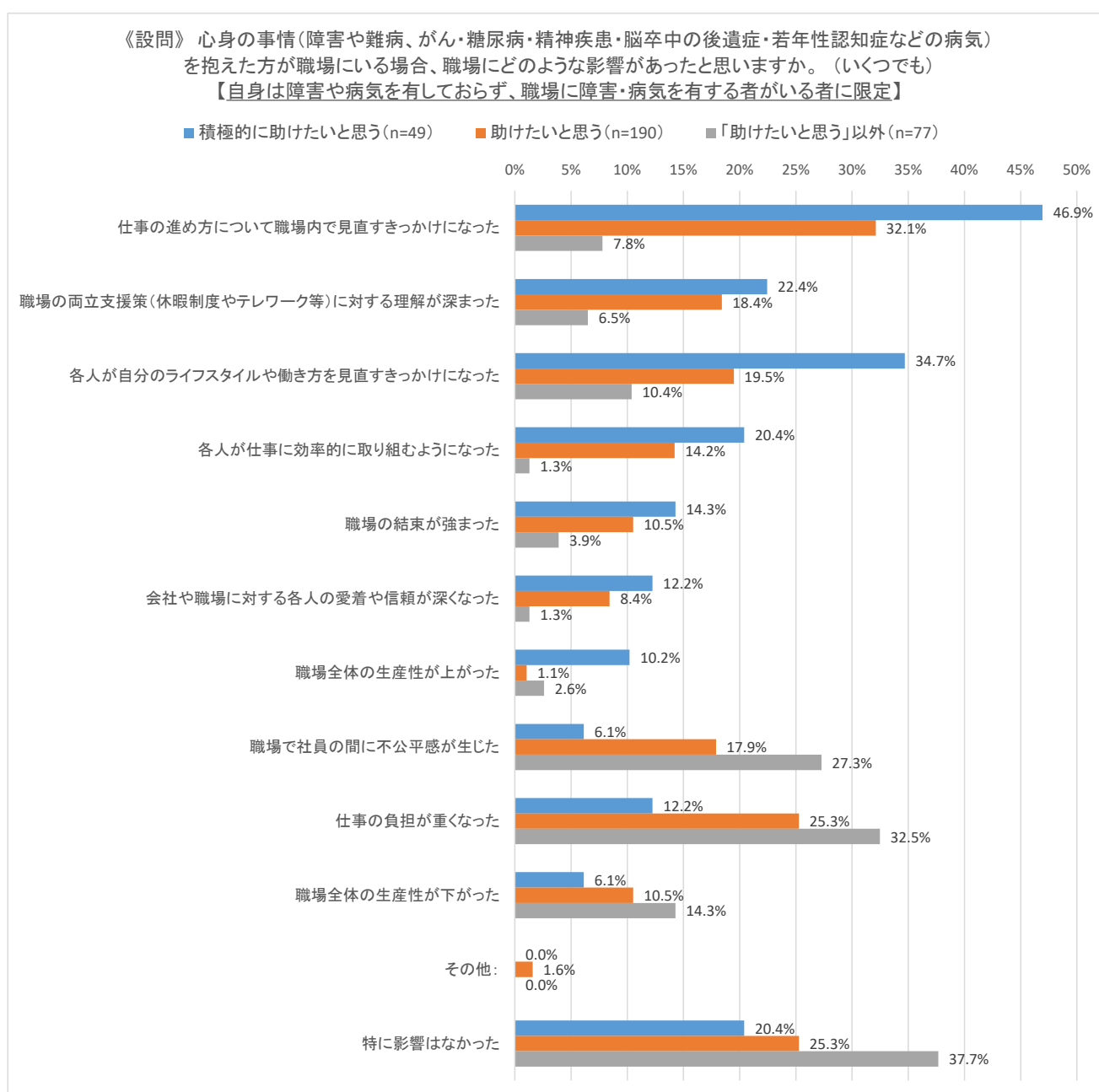
「職場に障害や病気を有する者（類型1の本人は含めない）がいる」と回答した者に対し、職場への影響を尋ねたところ、どの類型においても「仕事の進め方について職場内で見直すきっかけになった」が最多となっている。次いで、①障害・有病者では「職場の両立支援策（休暇制度やテレワーク等）に対する理解が深まった」が27.1%、②身近にいる者では「特に影響はなかった」が多くなっており、障害や病気を有する者が職場にいることがマイナスに作用せず、逆に仕事の進め方などについて職場内で見直されることで好影響を及ぼす可能性が推測される（図表2-5-9）。

図表 2-5-9 障害や病気を有する者が職場にいる場合の影響



障害や病気を有していない者について、障害や病気で困っている者を助けることへの意識別に、職場にいる障害や病気を有する者が職場へ及ぼす影響をどのように捉えているかをみると、「積極的に助けたいと思う」及び「助けたいと思う」と回答した者は、職場への影響について肯定的な選択肢を選択する傾向がある。一方で、「あまり助けたいとは思わない」「助けたいと思わない」「わからない」と回答した者は、職場への影響について否定的な選択肢を選択する傾向が見える。助け合いの意識が職場への影響の評価と関係していることがうかがえる（図表 2-5-10）。

図表 2-5-10 助け合いの意識別の障害や病気を有する者が職場にいる場合の影響



資料編

資料編の目次

■ 調査票.....	33
■ 類型別の集計結果.....	44

■ 調査票

調査項目の一覧及び調査票を以下に示す。なお、性別、年齢、居住地（都道府県）はアンケートモニター登録情報から取得した。

《スクリーニングの項目》

SC1. 心身の状態
SC2. 身近な人の心身の状況

《本調査の項目》

I 回答者の属性	(Q1) 家族構成 (Q2) 現在の就業状況 (Q3) 就業形態 (Q4) 支障の程度 (Q5) あなたの心身の状態 (Q6) 育児・介護の経験 (Q24) およそのあなたの世帯の年収
II 地域での支え合いに関する意識	(Q7) あなたの居住地や職場に障害や病気を有して困っている人がいたら助けたいと思いますか (Q8) 「積極的に助けたいと思う」又は「助けたいと思う」理由 (Q9) 「あまり助けたいとは思わない」又は「助けたいとは思わない」理由 (Q10) 過去1年以内に居住地や職場において、家族以外で障害や病気で困っている人を助けた経験がありますか (Q11) 居住地や職場において、家族以外で障害や病気を有して困っている人を助けた経験がない理由 (Q12) あなたは障害や病気を有して困っている人に対して次のような支援活動を行いたいと思いますか (Q13) あなたが障害や病気を有している場合、又は将来障害や病気を有したとした場合、次のような支援活動を受けたいと思いますか (Q14) あなたの居住地において、困っている人を助けるような地域活動（NPO、ボランティア活動、社会福祉協議会等の取組、民生委員の活動、近所の支え合い等）が展開されていると思いますか (Q15) 困っている人を助けるような地域活動を活発化させるための施策としてどれが有効だと思いますか (Q16) 障害や病気を有している人に対する買い物などの生活援助や外出の手伝い等のサービス（治療費は除く。）の負担に関して、どのようにあるべきだと考えますか
III 就労等に関する意識	(Q17) あなたご自身は、仕事をしたい又は続けたいと思いますか (Q18) 治療と仕事を両立すること、または障害を有しながら仕事をすることは困難だと思いますか (Q19) 仕事をしたくない又は続けたいと思わない理由、今後仕事ができない又は続けられないと思う理由 (Q20) 現在の状況について相談機関に相談したいと思いますか (Q21) 現在の状況を相談機関に相談するとすれば、どのような機関なら相談したいと思いますか (Q22) 相談したくないと思う理由 (Q23) 心身の事情（障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気）を有した方が職場にいる場合、職場にどのような影響があったと思いますか

自立支援に関する意識調査

1. スクリーニング調査

■心身の状態についてお伺いします。

SC1 必須 あなたは日常生活や就労において支障となる心身の事情（障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気）を抱えていますか。（ただし風邪や、骨折等の一時的なけがは除く）

- 1.はい
- 2.いいえ

■身近な人の心身の状況についてお伺いします。

SC2 必須 あなたの身近に心身の事情（障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気）によって日常生活や仕事において配慮が必要と思われる人（65歳未満の方に限る）はいますか。
（いくつでも）

- 1.職場にいる
- 2.家族や親戚にいる
- 3.友人や知人にいる
- 4.身近にいない(排他)

類型1 障害・有病者	障害や病気を有する者 SC1で「1.はい」と回答
類型2 身近にいる者	身近に障害や病気を有する者がいる者（類型1の該当者を除く） SC1で「2.いいえ」、SC2で「1」～「3」と回答
類型3 その他の者	類型1・類型2以外の者（かつて障害や病気を有していた者を含む） SC1で「2.いいえ」、SC2で「4.身近にいない」と回答

2. 本調査

Q1
必須 同居する家族の構成をお教えてください。

- 1.単独世帯
- 2.夫婦のみの世帯
- 3.夫婦と未婚の子のみの世帯
- 4.ひとり親と未婚の子のみの世帯
- 5.三世帯世帯
- 6.その他の世帯

Q2
必須 あなたの現在の就業状況をお答えください。


- 1.現在働いている
- 2.現在休職中である
- 3.現在働いていない

【Q2で「1.現在働いている」又は「2.現在休職中である」と回答した場合】

Q3
必須 ■前問で「{Q2 回答(文)}」とお答えの方にお伺いします■✳
就業形態をお教えてください。

- 1.正社員
- 2.公務員（正規職員）
- 3.契約社員・嘱託社員
- 4.パート・アルバイト（学生を除く）
- 5.派遣社員
- 6.自営業
- 7.その他： (回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)





【SC1で「1.はい」と回答した場合】

※はこれまでの回答状況に応じて、表示される選択肢が変ることを表している（以下同様）。

■支障の程度についてお伺いします。

Q4 **必須** ■先ほど「日常生活や就労において支障となる心身の事情（障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気）を抱えている」とお答えの方にお伺いします■

日常生活や就労において支障が生じている程度について、該当するものをすべて選択してください。
(いくつでも)

- 1.就労において、制約（時間、場所、職務内容等）がある
- 2.就労が難しい
- 3.一人で外出や買い物ができない
- 4.自分の身の回りのことができない

【SC1で「1.はい」と回答した場合】

■あなたの心身の状態についてお伺いします。

Q5 **必須** ■先ほど「日常生活や就労において支障となる心身の事情（障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気）を抱えている」とお答えの方にお伺いします■

あなたのご自身の心身の事情について、あてはまるものをすべてを選択してください。
(いくつでも)

- 1.身体障害
 - 2.身体の病気
 - 3.精神障害・こころの病気
 - 4.知的障害
 - 5.発達障害
 - 6.厚生労働省指定の難病
-

■ 育児・介護の経験についてお伺いします。

Q6
必須 育児又は介護の経験がありますか。

- 1. 育児・介護両方の経験がある
- 2. 育児の経験がある
- 3. 介護の経験がある
- 4. 経験がない

Q7
必須 あなたの居住地や職場に障害や病気を抱えていて困っている人がいたら助けたいと思いますか。

- 1. 積極的に助けたいと思う
- 2. 助けたいと思う
- 3. あまり助けたいとは思わない
- 4. 助けたいと思わない
- 5. わからない

【Q7で「1.積極的に助けたいと思う」又は「2.助けたいと思う」と回答した場合】

Q8
必須 「{Q7 回答(文)}」理由は何ですか。✳
(2つまで)

- 1. 困っているときはお互い様という気持ちから✳
- 2. 困っている人を手助けするのは当たり前のことだと思うから✳
- 3. 身内などに障害や難病等を抱えている人がいて、その大変さを知っているから✳
- 4. 将来、自分も障害や難病等を抱えるかもしれないから✳
- 5. 自分の仕事に関連して✳
- 6. 手助けを求めるキャンペーンなどを見たから✳
- 7. その他：✳ (回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)
- 8. 特に理由はない・わからない✳ (排他)

【Q7で「3.あまり助けたいとは思わない」又は「4.助けたいとは思わない」と回答した場合】

Q9 「{Q7 回答(文)}」理由は何ですか。❄
必須 (2つまで)

- 1.困っている障害や病気を抱えている人に出会う機会がないから❄
- 2.どのように接したらよいかわからないから❄
- 3.自分がなにをすればよいかわからないから❄
- 4.おせっかいになるような気がするから❄
- 5.専門の人や関係者にまかせた方がよいと思うから❄
- 6.自分にとって負担になるような気がするから❄
- 7.その他：❄ (回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)
- 8.特に理由はない・わからない❄ (排他)

Q10 過去1年以内に居住地や職場において、家族以外で障害や病気で困っている人を助けた経験がありますか。
必須

- 1.はい
- 2.いいえ

【Q7で「1.積極的に助けたいと思う」又は「2.助けたいと思う」、かつQ10で「2.いいえ」と回答した場合】

Q11 居住地や職場において、家族以外で障害や病気を抱えていて困っている人を助けた経験がない理由は何ですか。
必須 (2つまで)

- 1.障害や病気を抱えて困っている人に出会う機会がないから❄
- 2.仕事などで時間や余裕がないから❄
- 3.どのように接したらよいかわからないから❄
- 4.自分がなにをすればよいかわからないから❄
- 5.おせっかいになるような気がするから❄
- 6.専門の人や関係者にまかせた方がよいと思うから❄
- 7.自分にとって負担になるような気がするから❄
- 8.その他：❄ (回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)
- 9.特に理由はない・わからない❄ (排他)

Q12 あなたは障害や病気を抱えていて困っている人に対して次のような支援活動を行いたいと思いますか。
必須 (3つまで)

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 1.通院・買い物等の外出の手伝い* | <input type="checkbox"/> 7.日常会話の相手* |
| <input type="checkbox"/> 2.洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援* | <input type="checkbox"/> 8.急病などの緊急時の手助け* |
| <input type="checkbox"/> 3.配食サービスの支援* | <input type="checkbox"/> 9.気軽に行ける自由な居場所づくり* |
| <input type="checkbox"/> 4.ゴミ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事* | <input type="checkbox"/> 10.その他：* <input type="text"/> (回答必須)(入力制限なし) |
| <input type="checkbox"/> 5.見守り・安否確認* | <input type="checkbox"/> 11.特に手助けをしようと思わない*(排他) |
| <input type="checkbox"/> 6.悩み事の相談* | <input type="checkbox"/> 12.わからない*(排他) |

Q13 あなたが障害や病気を抱えている場合、又は将来障害や病気を抱えたとした場合、次のような支援活動を受けたいと思いますか。
必須 (3つまで)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 1.通院・買い物等の外出の手伝い | <input type="checkbox"/> 7.日常会話の相手 |
| <input type="checkbox"/> 2.洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援 | <input type="checkbox"/> 8.急病などの緊急時の手助け |
| <input type="checkbox"/> 3.配食サービスの支援 | <input type="checkbox"/> 9.気軽に行ける自由な居場所づくり |
| <input type="checkbox"/> 4.ゴミ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事 | <input type="checkbox"/> 10.その他： <input type="text"/> (回答必須)(入力制限なし)(200) |
| <input type="checkbox"/> 5.見守り・安否確認 | <input type="checkbox"/> 11.特に手助けを受けようと思わない(排他) |
| <input type="checkbox"/> 6.悩み事の相談 | <input type="checkbox"/> 12.わからない(排他) |

Q14 あなたの居住地において、困っている人を助けるような地域活動（NPO、ボランティア活動、社会福祉協議会等の取組、民生委員の活動、近所の支え合い等）が展開されていると思いますか。
必須

- 1.活発に行われていると思う
- 2.ある程度行われていると思う
- 3.あまり行われていないと思う
- 4.行われていないと思う
- 5.わからない

Q15 困っている人を助けるような地域活動を活発化させるための施策としてどれが有効だと思いますか。
必須 (いくつでも)

- 1.困っている人を助けるような地域活動のための組織や団体づくり
- 2.困っている人を助けるような地域活動のための活動費等の支援・補助
- 3. ボランティア参加者へのポイント制（付与されたポイントを地域での買い物等で使うことができる）など
インセンティブづくり（参加する意識を起こさせる動機づくり）
- 4. ボランティア体験などのきっかけづくり
- 5. 住民ボランティアのコーディネーター（調整を行うスタッフ）などの
困っている人を助けるような地域活動のための活動の中心となる指導者やリーダーの養成
- 6. 様々な人が交流できる拠点の整備など支え合いを行う場の提供
- 7. 障害や病気を抱える当事者同士の支え合い（ピアサポート）の支援
- 8. 困っている人を助けるような地域活動に係る広報・PR
- 9. その他： **(回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)**
- 10. 特にない・わからない**(排他)**

Q16 障害や病気を抱えている人に対する買い物などの生活援助や外出の手伝い等のサービス（治療費は除く）の負担に関して、どのようにあるべきだと考えますか。
必須 優先されるべきと思われる順に番号をつけてください。
(順位をお選びください)

公的サービスで賄うべき	<input type="text" value="選択してください"/>	▼
自己負担で賄うべき	<input type="text" value="選択してください"/>	▼
地域での支え合いで対応すべき	<input type="text" value="選択してください"/>	▼

Q17 あなたご自身は、仕事をしたい又は続けたいと思いますか。
必須

- 1. はい
- 2. いいえ

Q18
必須

治療と仕事を両立すること、または障害を抱えながら仕事することは困難だと思いますか。

- 1.はい
- 2.いいえ

【Q17で「2.いいえ」と回答した場合、又はSC1で「1.はい」かつQ17で「1.はい」かつQ18で「1.はい」と回答した場合】

Q19
必須

仕事をしたくない又は続けたいと思わない理由、今後仕事ができない又は続けられないと思う理由は何ですか。
(3つまで)

- 1.体力的に厳しいため✳
- 2.障害や病気に対する治療等に専念する必要があるため✳
- 3.職場環境や業務体制（柔軟な勤務形態、休暇・休業制度等）が整備されていないため✳
- 4.仕事内容や労働条件（労働時間や賃金など）が自身の希望と合わないため✳
- 5.職場の上司・同僚から、障害や病気に対する理解や協力が得られにくいいため✳
- 6.家族から仕事に就かないこと又は仕事を辞めることを勧められているため✳
- 7.職場の雰囲気合わないため✳
- 8.障害や病気等を抱える家族など（65歳以上の高齢者を除く）の看病、介護・介助があるため✳
- 9.育児や高齢者の介護・介助のため✳
- 10.他にやりたいこと（趣味など）があるため✳
- 11.特に理由はない✳ (排他)

Q20
必須

現在の状況について相談機関※に相談したいと思いますか。

※「相談機関」とは、市町村窓口、ハローワーク、障害者や難病患者の相談支援事業者、かかりつけ医療機関、保健所・保健センター、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、NPO法人等が運営する電話相談窓口などを指します。

- 1.はい
- 2.いいえ

【Q20で「1.はい」と回答した場合】

Q21 ■前問で「相談機関に相談したい」とお答えの方にお伺いします■

必須

現在の状況を相談機関に相談するとすれば、どのような機関なら相談したいと思いますか。
(いくつでも)

- 1.親身に聴いてくれる
- 2.医学的助言をくれる
- 3.心理学の専門家がいる
- 4.精神科医がいる
- 5.同じ悩みを持つ人と出会える
- 6.匿名で相談できる
- 7.無料で相談できる
- 8.公的機関の人や医療の専門家ではない民間団体である
- 9.自宅から近い
- 10.あてはまるものはない(排他)

【Q20で「2.いいえ」と回答した場合】

Q22 ■前問で「相談機関に相談したくない」とお答えの方にお伺いします■

必須

相談したくないと思う理由は何ですか。
(いくつでも)

- 1.自分のことを知られたくない
- 2.相談しても解決できないと思う
- 3.何を聴かれるか不安
- 4.相手にうまく話せない
- 5.行ったことを人に知られたくない
- 6.お金がかかる
- 7.相談機関が近くにない
- 8.特に理由はない・相談をする必要がない(排他)
- 9.その他： (回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)

【SC2で「1.職場にいる」と回答した場合】

Q23
必須

■先ほど「職場に心身の事情を抱えた人がいる」とお答えの方にお伺いします■

心身の事情（障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病
気）を抱えた方が職場にいる場合、職場にどのような影響があったと思いますか。
（いくつでも）

- 1.仕事の進め方について職場内で見直すきっかけになった
- 2.職場の両立支援策（休暇制度やテレワーク等）に対する理解が深まった
- 3.各人が自分のライフスタイルや働き方を見直すきっかけになった
- 4.各人が仕事に効率的に取り組むようになった
- 5.職場の結束が強まった
- 6.会社や職場に対する各人の愛着や信頼が深くなった
- 7.職場全体の生産性が上がった
- 8.職場で社員の間不公平感が生じた
- 9.仕事の負担が重くなった
- 10.職場全体の生産性が下がった
- 11.その他： (回答必須)(入力制限なし)(200文字まで)
- 12.特に影響はなかった(排他)

Q24
必須

およそのあなたの世帯の年収をお答えください。

- 1.100万円未満
- 2.100万円以上200万円未満
- 3.200万円以上300万円未満
- 4.300万円以上400万円未満
- 5.400万円以上500万円未満
- 6.500万円以上600万円未満
- 7.600万円以上700万円未満
- 8.700万円以上800万円未満
- 9.800万円以上900万円未満
- 10.900万円以上1,000万円未満
- 11.1,000万円以上

■ 類型別の集計結果

SC1.あなたは日常生活や就労において支障となる心身の事情(障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気)を抱えていますか。(ただし風邪や、骨折等の一時的なけがは除く)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
はい	1,000	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
いいえ	0	0.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%

SC2.あなたの身近に心身の事情(障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気)によって日常生活や仕事において配慮が必要と思われる人(65歳未満の方に限る)はいますか。(いくつでも)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
職場にいる	262	26.2%	316	31.6%	0	0.0%
家族や親戚にいる	383	38.3%	531	53.1%	0	0.0%
友人や知人にいる	196	19.6%	266	26.6%	0	0.0%
身近にいない	345	34.5%	0	0.0%	1,000	100.0%

Q1.同居する家族の構成をお教えてください。

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
単独世帯	211	21.1%	152	15.2%	180	18.0%
夫婦のみの世帯	180	18.0%	221	22.1%	219	21.9%
夫婦と未婚の子のみの世帯	351	35.1%	411	41.1%	399	39.9%
ひとり親と未婚の子のみの世帯	97	9.7%	85	8.5%	61	6.1%
三世代世帯	93	9.3%	72	7.2%	76	7.6%
その他の世帯	68	6.8%	59	5.9%	65	6.5%

Q2.あなたの現在の就業状況をお答えください。

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
現在働いている	664	66.4%	822	82.2%	747	74.7%
現在休職中である	68	6.8%	31	3.1%	19	1.9%
現在働いていない	268	26.8%	147	14.7%	234	23.4%

【Q2で「1.現在働いている」又は「2.現在休職中である」と回答した場合】

Q3.就業形態をお教えてください。

	類型1 障害・有病者	類型2 身近にいる者	類型3 その他の者
N数	732 100.0%	853 100.0%	766 100.0%
正社員	379 51.8%	504 59.1%	420 54.8%
公務員(正規職員)	63 8.6%	85 10.0%	58 7.6%
契約社員・嘱託社員	63 8.6%	52 6.1%	65 8.5%
パート・アルバイト(学生を除く)	114 15.6%	127 14.9%	129 16.8%
派遣社員	18 2.5%	15 1.8%	13 1.7%
自営業	79 10.8%	61 7.2%	74 9.7%
その他:	16 2.2%	9 1.1%	7 0.9%

【SC1で「1.はい」と回答した場合】

Q4. ■先ほど「日常生活や就労において支障となる心身の事情(障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気)を抱えている」とお答えの方にお伺いします ■日常生活や就労において支障が生じている程度について、該当するものをすべて選択してください。(いくつでも)

	類型1 障害・有病者	類型2 身近にいる者	類型3 その他の者
N数	1,000 100.0%	—	—
就労において、制約(時間、場所、職務内容等)がある	744 74.4%	—	—
就労が難しい	170 17.0%	—	—
一人で外出や買い物ができない	109 10.9%	—	—
自分の身の回りのことができない	73 7.3%	—	—

【SC1で「1.はい」と回答した場合】

Q5. ■先ほど「日常生活や就労において支障となる心身の事情(障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気)を抱えている」とお答えの方にお伺いします ■あなたのご自身の心身の事情について、あてはまるものすべてを選択してください。(いくつでも)

	類型1 障害・有病者	類型2 身近にいる者	類型3 その他の者
N数	1,000 100.0%	—	—
身体障害	208 20.8%	—	—
身体の病気	369 36.9%	—	—
精神障害・こころの病気	482 48.2%	—	—
知的障害	27 2.7%	—	—
発達障害	70 7.0%	—	—
厚生労働省指定の難病	60 6.0%	—	—

Q6. 育児又は介護の経験がありますか。

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
	N数	100.0%	N数	100.0%	N数	100.0%
育児・介護両方の経験がある	138	13.8%	162	16.2%	68	6.8%
育児の経験がある	213	21.3%	347	34.7%	332	33.2%
介護の経験がある	138	13.8%	131	13.1%	62	6.2%
経験がない	511	51.1%	360	36.0%	538	53.8%

Q7. あなたの居住地や職場に障害や病気を抱えていて困っている人がいたら助けたいと思いますか。

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
	N数	100.0%	N数	100.0%	N数	100.0%
積極的に助けたいと思う	184	18.4%	134	13.4%	64	6.4%
助けたいと思う	489	48.9%	635	63.5%	490	49.0%
あまり助けたいとは思わない	72	7.2%	98	9.8%	122	12.2%
助けたいと思わない	38	3.8%	25	2.5%	41	4.1%
わからない	217	21.7%	108	10.8%	283	28.3%

【Q7で「1.積極的に助けたいと思う」又は「2.助けたいと思う」と回答した場合】

Q8. 「積極的に助けたいと思う」又は「助けたいと思う」理由は何ですか。(2つまで)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
	N数	100.0%	N数	100.0%	N数	100.0%
困っているときはお互い様という気持ちから	443	65.8%	450	58.5%	387	69.9%
困っている人を手助けするのは当たり前のことだと思うから	342	50.8%	354	46.0%	267	48.2%
身内などに障害や難病等を抱えている人がいて、その大変さを知っているから	187	27.8%	205	26.7%	29	5.2%
将来、自分も障害や難病等を抱えるかもしれないから	0	0.0%	201	26.1%	121	21.8%
自分の仕事に関連して	31	4.6%	53	6.9%	17	3.1%
手助けを求めるキャンペーンなどを見たから	3	0.4%	3	0.4%	1	0.2%
その他:	7	1.0%	3	0.4%	3	0.5%
特に理由はない・わからない	18	2.7%	11	1.4%	19	3.4%

【Q7で「3.あまり助けたいとは思わない」又は「4.助けたいと思わない」と回答した場合】

Q9.「あまり助けたいとは思わない」又は「助けたいと思わない」理由は何ですか。(2つまで)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	110	100.0%	123	100.0%	163	100.0%
困っている障害や病気を抱えている人に出会う機会がないから	2	1.8%	0	0.0%	10	6.1%
どのように接したらよいかわからないから	27	24.5%	34	27.6%	51	31.3%
自分がなにをすればよいかわからないから	22	20.0%	23	18.7%	27	16.6%
おせっかいになるような気がするから	32	29.1%	32	26.0%	30	18.4%
専門の人や関係者にまかせた方がよいと思うから	27	24.5%	50	40.7%	57	35.0%
自分にとって負担になるような気がするから	43	39.1%	54	43.9%	64	39.3%
その他:	3	2.7%	6	4.9%	5	3.1%
特に理由はない・わからない	5	4.5%	2	1.6%	12	7.4%

Q10.過去1年以内に居住地や職場において、家族以外で障害や病気で困っている人を助けた経験がありますか。

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
はい	399	39.9%	354	35.4%	109	10.9%
いいえ	601	60.1%	646	64.6%	891	89.1%

【Q7で「1.積極的に助けたいと思う」又は「2.助けたいと思う」、かつQ10で「2.いいえ」と回答した場合】

Q11.居住地や職場において、家族以外で障害や病気を抱えていて困っている人を助けた経験がない理由は何ですか。(2つまで)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	322	100.0%	449	100.0%	467	100.0%
障害や病気を抱えて困っている人に出会う機会がないから	173	53.7%	233	51.9%	341	73.0%
仕事などで時間や余裕がないから	37	11.5%	55	12.2%	29	6.2%
どのように接したらよいかわからないから	36	11.2%	54	12.0%	35	7.5%
自分がなにをすればよいかわからないから	53	16.5%	82	18.3%	36	7.7%
おせっかいになるような気がするから	41	12.7%	46	10.2%	32	6.9%
専門の人や関係者にまかせた方がよいと思うから	31	9.6%	38	8.5%	20	4.3%
自分にとって負担になるような気がするから	15	4.7%	8	1.8%	2	0.4%
その他:	7	2.2%	18	4.0%	5	1.1%
特に理由はない・わからない	41	12.7%	57	12.7%	58	12.4%

Q12.あなたは障害や病気を抱えていて困っている人に対して次のような支援活動を行いたいと思いますか。(3つまで)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
	N数	100.0%	N数	100.0%	N数	100.0%
通院・買い物等の外出の手伝い	281	28.1%	280	28.0%	230	23.0%
洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援	129	12.9%	108	10.8%	74	7.4%
配食サービスの支援	59	5.9%	45	4.5%	29	2.9%
ゴミ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事	178	17.8%	271	27.1%	188	18.8%
見守り・安否確認	215	21.5%	336	33.6%	231	23.1%
悩み事の相談	186	18.6%	190	19.0%	82	8.2%
日常会話の相手	248	24.8%	298	29.8%	178	17.8%
急病などの緊急時の手助け	145	14.5%	205	20.5%	141	14.1%
気軽に行ける自由な居場所づくり	75	7.5%	88	8.8%	37	3.7%
その他:	7	0.7%	11	1.1%	4	0.4%
特に手助けをしようと思わない	56	5.6%	42	4.2%	89	8.9%
わからない	226	22.6%	159	15.9%	346	34.6%

Q13.あなたが障害や病気を抱えている場合、又は将来障害や病気を抱えたとした場合、次のような支援活動を受けたいと思いますか。(3つまで)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
	N数	100.0%	N数	100.0%	N数	100.0%
通院・買い物等の外出の手伝い	346	34.6%	423	42.3%	314	31.4%
洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援	277	27.7%	359	35.9%	252	25.2%
配食サービスの支援	140	14.0%	134	13.4%	111	11.1%
ゴミ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事	158	15.8%	212	21.2%	170	17.0%
見守り・安否確認	181	18.1%	210	21.0%	159	15.9%
悩み事の相談	178	17.8%	125	12.5%	60	6.0%
日常会話の相手	168	16.8%	170	17.0%	108	10.8%
急病などの緊急時の手助け	263	26.3%	333	33.3%	232	23.2%
気軽に行ける自由な居場所づくり	107	10.7%	81	8.1%	40	4.0%
その他:	5	0.5%	2	0.2%	2	0.2%
特に手助けを受けようと思わない	64	6.4%	54	5.4%	79	7.9%
わからない	157	15.7%	147	14.7%	317	31.7%

Q14. あなたの居住地において、困っている人を助けるような地域活動（NPO、ボランティア活動、社会福祉協議会等の取組、民生委員の活動、近所の支え合い等）が展開されていると思いますか。

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
	N数	100.0%	N数	100.0%	N数	100.0%
活発に行われていると思う	63	6.3%	21	2.1%	13	1.3%
ある程度行われていると思う	249	24.9%	311	31.1%	151	15.1%
あまり行われていないと思う	269	26.9%	317	31.7%	280	28.0%
行われていないと思う	152	15.2%	104	10.4%	122	12.2%
わからない	267	26.7%	247	24.7%	434	43.4%

Q15. 困っている人を助けるような地域活動を活発化させるための施策としてどれが有効だと思いますか。（いくつでも）

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
	N数	100.0%	N数	100.0%	N数	100.0%
困っている人を助けるような地域活動のための組織や団体づくり	355	35.5%	412	41.2%	316	31.6%
困っている人を助けるような地域活動のための活動費等の支援・補助	364	36.4%	403	40.3%	270	27.0%
ボランティア参加者へのポイント制などインセンティブづくり	236	23.6%	286	28.6%	176	17.6%
ボランティア体験などのきっかけづくり	235	23.5%	278	27.8%	197	19.7%
住民ボランティアのコーディネーターなどの活動の中心となる指導者やリーダーの養成	216	21.6%	242	24.2%	163	16.3%
様々な人が交流できる拠点の整備など支え合いを行う場の提供	215	21.5%	282	28.2%	184	18.4%
障害や病気等を抱える当事者同士の支え合い（ピアサポート）の支援	214	21.4%	209	20.9%	117	11.7%
困っている人を助けるような地域活動に係る広報・PR	159	15.9%	203	20.3%	132	13.2%
その他：	13	1.3%	14	1.4%	4	0.4%
特にない・わからない	254	25.4%	156	15.6%	359	35.9%

Q16. 障害や病気を抱えている人に対する買い物などの生活援助や外出の手伝い等のサービス(治療費は除く)の負担に関して、どのようにあるべきだと思いますか。優先されるべきと思われる順に番号をつけてください。(順位をお選びください)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
1. 公的サービスで賄うべき						
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
1位	754	75.4%	735	73.5%	749	74.9%
2位	180	18.0%	199	19.9%	187	18.7%
3位	66	6.6%	66	6.6%	64	6.4%

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
2. 自己負担で賄うべき						
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
1位	123	12.3%	127	12.7%	132	13.2%
2位	265	26.5%	228	22.8%	302	30.2%
3位	612	61.2%	645	64.5%	566	56.6%

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
3. 地域での支え合いで対応すべき						
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
1位	123	12.3%	138	13.8%	119	11.9%
2位	555	55.5%	573	57.3%	511	51.1%
3位	322	32.2%	289	28.9%	370	37.0%

Q17. あなたご自身は、仕事をしたい又は続けたいと思いますか。

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
はい	845	84.5%	867	86.7%	797	79.7%
いいえ	155	15.5%	133	13.3%	203	20.3%

Q18. 治療と仕事を両立すること、または障害を抱えながら仕事することは困難だと思いますか。

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
はい	663	66.3%	725	72.5%	758	75.8%
いいえ	337	33.7%	275	27.5%	242	24.2%

【Q17で「2.いいえ」と回答した場合、又はSC1で「1.はい」かつQ17で「1.はい」かつQ18で「1.はい」と回答した場合】

Q19.仕事をしたくない又は続けたいと思わない理由、今後仕事ができない又は続けられないと思う理由は何ですか。(3つまで)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	697	100.0%	133	100.0%	203	100.0%
体力的に厳しいため	345	49.5%	63	47.4%	59	29.1%
障害や病気に対する治療等に専念する必要があるため	218	31.3%	0	0.0%	0	0.0%
職場環境や業務体制が整備されていないため	229	32.9%	23	17.3%	20	9.9%
仕事内容や労働条件が自身の希望と合わないため	178	25.5%	31	23.3%	31	15.3%
職場の上司・同僚から、障害や病気に対する理解や協力が得られにくい	196	28.1%	13	9.8%	12	5.9%
家族から仕事に就かないこと又は仕事を辞めることを勧められているため	51	7.3%	3	2.3%	3	1.5%
職場の雰囲気合わないため	37	5.3%	10	7.5%	10	4.9%
障害や病気等を抱える家族などの看病、介護・介助があるため	14	2.0%	5	3.8%	0	0.0%
育児や高齢者の介護・介助のため	27	3.9%	16	12.0%	18	8.9%
他にやりたいこと(趣味など)があるため	35	5.0%	32	24.1%	48	23.6%
特に理由はない	72	10.3%	20	15.0%	75	36.9%

Q20.現在の状況について相談機関※に相談したいと思いませんか。※「相談機関」とは、市町村窓口、ハローワーク、障害者や難病患者の相談支援事業者、かかりつけ医療機関、保健所・保健センター、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、NPO法人等が運営する電話相談窓口などを指します。

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
はい	451	45.1%	314	31.4%	181	18.1%
いいえ	549	54.9%	686	68.6%	819	81.9%

【Q20で「1.はい」と回答した場合】

Q21. ■前問で「相談機関に相談したい」とお答えの方にお伺いします ■現在の状況を相談機関に相談するとすれば、どのような機関なら相談したいと思いますか。(いくつでも)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	451	100.0%	314	100.0%	181	100.0%
親身に聴いてくれる	287	63.6%	193	61.5%	95	52.5%
医学的助言をくれる	194	43.0%	116	36.9%	56	30.9%
心理学の専門家がいる	167	37.0%	89	28.3%	39	21.5%
精神科医がいる	140	31.0%	69	22.0%	28	15.5%
同じ悩みを持つ人と出会える	152	33.7%	103	32.8%	53	29.3%
匿名で相談できる	95	21.1%	88	28.0%	38	21.0%
無料で相談できる	228	50.6%	185	58.9%	86	47.5%
公的機関の人や医療の専門家ではない民間団体である	52	11.5%	19	6.1%	9	5.0%
自宅から近い	123	27.3%	79	25.2%	41	22.7%
あてはまるものはない	12	2.7%	14	4.5%	24	13.3%

【Q20で「2.いいえ」と回答した場合】

Q22. ■前問で「相談機関に相談したくない」とお答えの方にお伺いします ■相談したくないと思う理由は何ですか。(いくつでも)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	549	100.0%	686	100.0%	819	100.0%
自分のことを知られたくない	89	16.2%	63	9.2%	78	9.5%
相談しても解決できないと思う	236	43.0%	168	24.5%	158	19.3%
何を聴かれるか不安	67	12.2%	42	6.1%	44	5.4%
相手にうまく話せない	85	15.5%	42	6.1%	51	6.2%
行ったことを人に知られたくない	44	8.0%	29	4.2%	19	2.3%
お金がかかる	58	10.6%	54	7.9%	46	5.6%
相談機関が近くにない	46	8.4%	60	8.7%	45	5.5%
特に理由はない・相談をする必要がない	190	34.6%	404	58.9%	526	64.2%
その他:	23	4.2%	12	1.7%	6	0.7%

【SC2で「1.職場にいる」と回答した場合】

Q23. ■先ほど「職場に心身の事情を抱えた人がいる」とお答えの方にお伺いします ■心身の事情(障害や難病、がん・糖尿病・精神疾患・脳卒中の後遺症・若年性認知症などの病気)を抱えた方が職場にいる場合、職場にどのような影響があったと思いますか。(いくつでも)

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	262	100.0%	316	100.0%	—	
仕事の進め方について職場内で見直しきっかけになった	96	36.6%	90	28.5%	—	
職場の両立支援策(休暇制度やテレワーク等)に対する理解が深まった	71	27.1%	51	16.1%	—	
各人が自分のライフスタイルや働き方を見直しきっかけになった	70	26.7%	62	19.6%	—	
各人が仕事に効率的に取り組むようになった	43	16.4%	38	12.0%	—	
職場の結束が強まった	37	14.1%	30	9.5%	—	
会社や職場に対する各人の愛着や信頼が深くなった	31	11.8%	23	7.3%	—	
職場全体の生産性が上がった	17	6.5%	9	2.8%	—	
職場で社員の間に不公平感が生じた	42	16.0%	58	18.4%	—	
仕事の負担が重くなった	36	13.7%	79	25.0%	—	
職場全体の生産性が下がった	24	9.2%	34	10.8%	—	
その他:	2	0.8%	3	0.9%	—	
特に影響はなかった	52	19.8%	87	27.5%	—	

Q24. およそのあなたの世帯の年収をお答えください。

	類型1 障害・有病者		類型2 身近にいる者		類型3 その他の者	
N数	1,000	100.0%	1,000	100.0%	1,000	100.0%
100万円未満	97	9.7%	33	3.3%	75	7.5%
100万円以上200万円未満	106	10.6%	46	4.6%	66	6.6%
200万円以上300万円未満	129	12.9%	87	8.7%	79	7.9%
300万円以上400万円未満	120	12.0%	128	12.8%	117	11.7%
400万円以上500万円未満	122	12.2%	126	12.6%	122	12.2%
500万円以上600万円未満	110	11.0%	127	12.7%	112	11.2%
600万円以上700万円未満	80	8.0%	93	9.3%	100	10.0%
700万円以上800万円未満	69	6.9%	77	7.7%	93	9.3%
800万円以上900万円未満	39	3.9%	71	7.1%	54	5.4%
900万円以上1,000万円未満	44	4.4%	41	4.1%	57	5.7%
1,000万円以上	84	8.4%	171	17.1%	125	12.5%